

2026年度版ルール新旧対照表

2026年4月1日から適用する新ルールについて、2023年版との新旧対照表です。
必ず一括版のルールブックの原文を確認してください。

2026年度版ルール 新旧対照表

4. 競技者資格、商業上権利/スポンサーシップ/広告ルール

旧

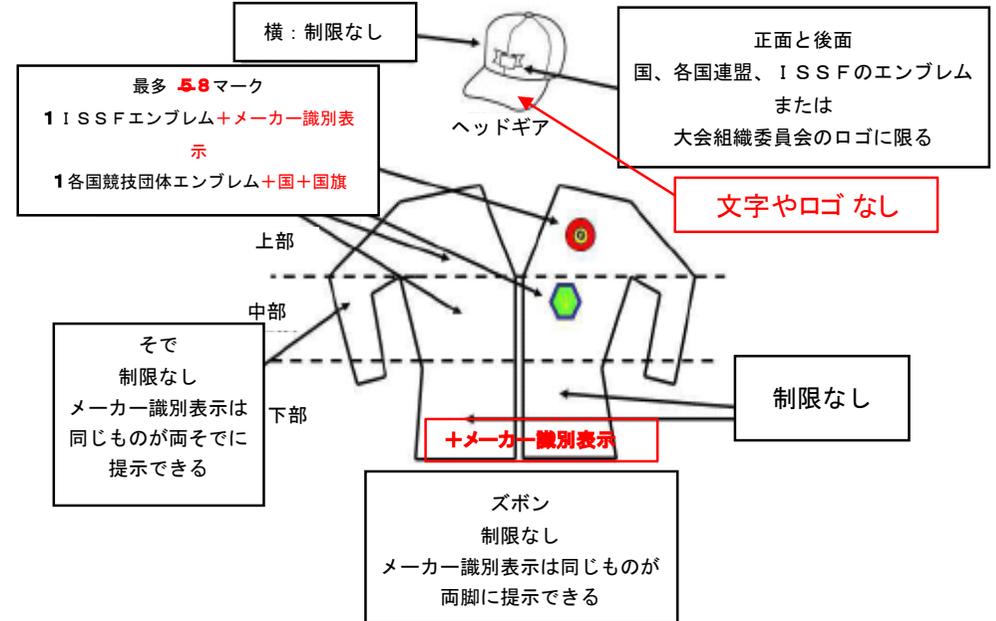
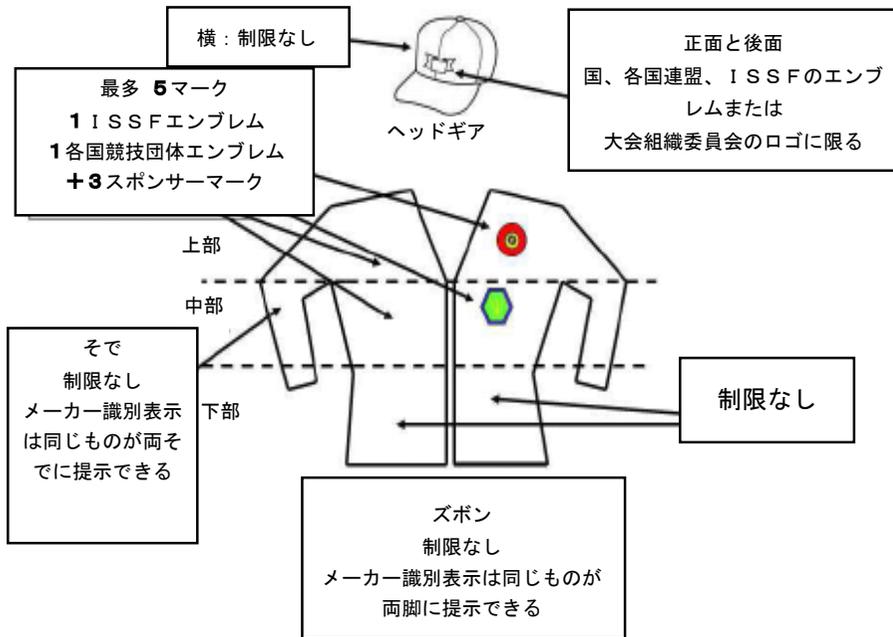
新

スポンサーマーク（全種目） ①

スポンサーマーク（全種目） ①

上着正面（右射手用）
大きさの制限なし

上着正面（右射手用）
大きさの制限なし



2026年度版ルール 新旧対照表

6. GTR

旧

新

目次

6.19 オリンピックのショットガン種目のファイナル (略)

6.20 ショットガンスキートミックス種目 (略)

6.21 書類様式

6.22 ISSFドレスコード

6.23 索引

~~オリンピックのショットガン種目のファイナル (略)~~

~~書類様式~~

~~ショットガンスキートミックス種目 (略)~~

ISSFドレスコード

書類様式

索引

削除
削除

定義と略号

種目 (Discipline)	種目 (Event) の共通的特徴で分他グループ。射撃は5種類(ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット、ターゲットスプリント)の種目 (Discipline) から構成される。
-----------------	--

定義と略号

種目 (Discipline)	種目 (Event) の共通的特徴で分他グループ。射撃は5種類(ライフル、ピストル、ショットガン、 ランニングダムービング ターゲット、ターゲットスプリント)の種目 (Discipline) から構成される。
-----------------	---

FOP
と
MATCH
Shots
の間に
挿入

ITO	International Technical Official (国際競技役員)、通常、ISSFが任命したジュリーを指す。
-----	--

Min.
と
Olympic
Event
の間に
挿入

NTO	National Technical Officer (国内競技役員)、通常、主催国連盟が任命した射場役員やレフリーを指す。
-----	--

Ranking Lists と RTS の間に挿入	RPO	Ranking Points Only (ランキングポイントのみ) — 成績表において、ランキングポイントを得るためだけにエントリーした選手に付けられる記号。この選手はファイナルには進出できない。
---------------------------	-----	---

表の最後に追加	TD	Technical Delegate ISSF執行委員会に任命されたISSF高等官で、組織委員会とISSF間の主たる調整役員。
---------	----	---

ISSF承認射撃種目

ISSF承認射撃種目

この表はISSF承認射撃種目の一覧表であり、国際オリンピック委員会やISSF総会(1.6.7.7)によって、管理理事会(1.7.2.5)によって承認された各競技種目における競技形式や撃発数に関する基本的技術的詳細と併に承認されたステータスの一覧表である。

- ・ISSF選手権大会において、男子、少年男子、女子および少年女子の種目が個人戦のみとなるか個人戦と団体戦(3人)とミックス種目となるかは、その大会で定められた規定と競技予定による。
- ・ステータスは各種目に関して承認されたステータスを示している。
 - a) M=男子種目として承認されている種目
 - b) W=女子種目として承認されている種目
 - c) MJ=少年男子種目として承認されている種目
 - d) WJ=少年女子種目として承認されている種目
 - e) Olympic=オリンピック種目としてIOCに承認されている種目
 - f) WCH=世界選手権大会で実施必須の種目
 - g) WCHS=通常の世界選手権大会で実施できない場合、別開催の世界選手権大会として開催される別開催世界選手権大会の種目(3.3.6.3および3.3.6.4参照)
 - h) オリンピック種目は本選とファイナルが行われ、非オリンピック種目は本選とオプションのファイナルが行われる。
 - i) すべてのISSF種目のテクニカルルールはゼネラルテクニカルルールおよびライフル、ピストルルール(7.0、8.0)に記載されている
 - j) ライフルおよびピストル種目のファイナルのテクニカルルールは6.17に記載されている
 - k) ミックスチーム種目のテクニカルルールは6.18に記載されている。

この表はISSF承認射撃種目の一覧表であり、国際オリンピック委員会やISSF総会(1.6.7.7)によって、管理理事会(1.7.2.5)によって承認された各競技種目における競技形式や撃発数に関する基本的技術的詳細と併に承認されたステータスの一覧表である。

- ISSF選手権大会において、男子、少年男子、女子および少年女子の種目が個人戦のみとなるか個人戦と団体戦(3人)とミックス種目となるかは、その大会で定められた規定と競技予定による(3.8)。
ステータスは各種目に関して承認されたステータスを示している。
- a) M=男子種目として承認されている種目
 - b) W=女子種目として承認されている種目
 - c) MJ=少年男子種目として承認されている種目
 - d) WJ=少年女子種目として承認されている種目
 - e) Olympic=オリンピック種目としてIOCに承認されている種目
 - f) WCH=世界選手権大会で実施必須の種目
 - g) WCHS=通常の世界選手権大会で実施できない場合、別開催の世界選手権大会として開催される別開催世界選手権大会の種目(3.3.6.3および3.3.6.4参照)
 - h) オリンピック種目は本選とファイナルが行われ、非オリンピック種目は本選とオプションのファイナルが行われる。
 - i) すべてのISSF種目のテクニカルルールはゼネラルテクニカルルールおよびライフル、ピストルルール(7.0、8.0)に記載されている
 - j) ライフルおよびピストル種目のファイナルのテクニカルルールは6.17に記載されている
 - k) **ライフルおよびピストル**のミックスチーム種目のテクニカルルールは6.18に記載されている。

男子および少年男子の種目

10mエアライフル(立射)	AR60		ARM	
略号				
50mライフル三姿勢(膝射、伏射、立射)	FR3 × 2 0	45発	R3PM	35発
略号、ファイナル				
50mライフル伏射	FR60PR		RPRM	
略号				
300mライフル三姿勢(膝射、伏射、立射)	300FR3 × 20		300R3PM	
略号				
300mスタンダードライフル三姿勢(膝射、伏射、立射)	300STR3 × 20		300STR3PM	
略号				
300mライフル伏射	300FR60PR		300RPRM	
略号				
10mエアピストル	AP60		APM	
略号				
25mラピッドファイアピストル(8、6、4秒射シリーズ)	RFP		RFPM	
略号				
25mスタンダードピストル(150、20、10秒射シリーズ)	STP		STPM	
略号				
25mセンターファイアピストル(精密および速射シリーズ)	CFP		CFPM	
略号				
50mピストル	FP		FPM	

女子および少年女子の種目

10mエアライフル(立射)
略号

AR60W

ARW

50mライフル三姿勢
(膝射、伏射、立射)
略号、ファイナル

R3 × 20

45発

R3PW

35発

50mライフル伏射
略号

R60PR

RPRW

300mライフル三姿勢
(膝射、伏射、立射)
略号

300R3 × 20

300R3PW

300mライフル伏射
略号

300R60PR

300RPRW

10mエアピストル
略号

AP60W

APW

25mピストルの後に追加 25mスタンダードピストル(150、20、10秒射シリーズ) STPW W、WJ、WCH 20+20+20発

25mセンターファイアピストル(精密および速射シリーズ) CFPW W、WCH 30+30発

50mピストル FPW W、WCH 60発

男女各1名によるミックス種目

10mエアライフル(立射)
略号、ファイナル

ファイナル
ステージ
1、2
メダルマッチは16ポイント先取で勝利

ARMT

本選上位
4チーム
によるファイナル
24発

10mエアピストル
略号、ファイナル

ファイナル
ステージ
1、2
メダルマッチは16ポイント先取で勝利

APMT

本選上位
4チーム
によるファイナル
24発

6.1.1 a ISSFゼネラルテクニカルルール(GTR)は射場基準、標的規格、採点手順およびすべての射撃種目における具体的な競技手順を含む。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲットおよびターゲットスプリントの5つの射撃種目でそれぞれに適用される。

ISSFゼネラルテクニカルルール(GTR)は射場基準、標的規格、採点手順およびすべての射撃種目における具体的な競技手順を含む。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、~~ランニング~~ **ムービング**ターゲットおよびターゲットスプリントの5つの射撃種目でそれぞれに適用される。

6.1.2.b ISSFは、理事会の承認を得て、試合管理のISSF基準(例えば、テクニカルデレゲート、ジュリー、ドーピングコントロール、参加手順、成績管理など)が満たされるその他の競技大会を、MQS/RPO得点が獲得でき、世界記録が公認される競技大会、例えばグランプリ競技会、として認定することができる。

ISSFは、理事会の承認を得て、試合管理のISSF基準(例えば、テクニカルデレゲート、ジュリー、ドーピングコントロール、参加手順、成績管理など)が満たされるその他の競技大会を、**最少資格得点やランキングポイント(MQS/RPO)**の得点が獲得でき、世界記録が公認される競技大会、例えばグランプリ競技会、として認定することができる。

6.1.5.1.e ISSFは国内レフェリーを支援するために、国際レフェリーを任命することができる。

dの後に追加

6.2.1.3 選手、射場役員および観衆に対する安全を期するために射場内での銃器の運搬、行動等には常時細心の注意を払わなければならない。銃の安全措置を守らせることは射場役員の義務であり、銃の安全措置と銃の取り扱いのルール全てを適用させることは選手やチーム役員の義務である。

選手、射場勤務員、役員および観衆に対する安全を期するために射場内での銃器の運搬、行動等には常時細心の注意を払わなければならない。銃の安全措置を守らせることは射場役員の義務であり、銃の安全措置と銃の取り扱いのルール全てを適用させることは選手やチーム役員の義務である。

6.2.1.4 安全予防措置には、大会のすべての参加者への安全な食事、手洗いおよび携帯できる水の提供を含めなければならない。また、選手および射場役員の熱疲労または低体温症の確実に予防するため、スケジュールは適切に管理されなければならない。

6.2.1.4 → 6.2.1.5

6.2.1.5 → 6.2.1.6

6.2.1.6 → 6.2.1.7

に順次繰り下げ

6.2.1.5 安全確保のためには Jury または射場役員はいつでも射撃を中止させることができる。選手やチーム役員は、危険な行為や事故につながる事態を発見した場合はただちに射場役員または Jury に報告しなければならない。

6.2.1.6 安全確保のためには Jury、レフェリーまたは射場役員はいつでも射撃を中止させることができる。選手やチーム役員は、危険な行為や事故につながる事態を発見した場合はただちに射場役員、レフェリーまたは Jury に報告しなければならない。

6.2.2.2 前段 最終文 ショットガンに弾が装填されていないことを示すためには、銃の機関部が開放されていないなければならない。

ショットガンに弾が装填されていないことを示すためには、銃の機関部が開放されていないなければならないが、それはショットガンが銃架に置いてあるときにも適用される。

6.2.2.2 a 1行目 銃ケースなどから出された全ての銃は、

銃ケースなどから出された全ての銃ライフルとピストルは、

6.2.2.2. b このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなければ、Jury は銃器にセフティフラッグを挿入するように指導し、警告を与えなければならない。

このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなかったり、ショットガンを開放していなければ、Jury は銃器にセフティフラッグを挿入するまたはショットガンを開放するように指導し、警告を与えなければならない。

6.2.2.2. c もし Jury が、警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格 (DSQ) とされなければならない。

もし Jury が、警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用またはショットガンの開放を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格 (DSQ) とされなければならない。

- 6.2.2.4 選手は銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了したときには、銃の機関部（ボルトまたは閉鎖機構）を開放して抜弾し、セーフティフラッグを挿入しなければならない。射座を離れる前に選手はそれを確認し、また射場役員は銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセーフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
- 6.2.2.6 競技中、銃器を手から離して置くときは、抜弾し、弾倉を取りはずし、機関部を開けてからのみ置くことができる。エアガンにあっては、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにしなければならない。
- 6.2.2.7 射撃線の前方に作業員がいるときは銃器の取り扱いは許されずセーフティフラッグが挿入されていなければならない。もしジュリーや射場役員または技術役員が、練習、本選またはファイナル中に射撃線より前に行く必要がある場合、射場長（CRO）により認可され、制御されていなければならない。射撃線の前方での行動は、すべての銃がセーフティフラッグを挿入した後のみ、許可される。
- 6.2.2.8 射座以外の射場内では、射場役員の指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れておかなければならない。
- 6.2.3.1 射場長または他の適切な射場役員は“LOAD”、“START”、“STOP”、“UNLOAD”や他の必要な号令を出す責任がある。射場役員は選手が号令に従っているか、銃器を安全に取り扱っているかを確認しなければならない。
- 6.2.3.2 銃器や弾倉には、射座において“START”または“LOAD”の号令の後にもみ装填できる。これ以外のときには銃器や弾倉は抜弾されていなければならない。

選手は銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了**またはショットガンのラウンドが完了**したときには、銃の機関部（ボルトまたは閉鎖機構）を開放して抜弾し、セーフティフラッグを挿入しなければならない。射座を離れる前**または射場を離れる前**に選手はそれを確認し、また射場役員**またはレフェリー**は銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセーフティフラッグが挿入されていること**またはショットガンが開放されている**ことを確認しなければならない。

競技中、銃器を手から離して置くときは、抜弾し、弾倉を取りはずし、機関部を開け、**ショットガンにおいては銃を開放**してからのみ置くことができる。エアガンにあっては、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにしなければならない。

射撃線**または射台**の前方に作業員がいるときは銃器の取り扱いは許されずセーフティフラッグが挿入されていなければならない。**ショットガンは抜弾され開放されていなければならない**。もしジュリーや射場役員または技術役員が、練習、本選またはファイナル中に射撃線より前に行く必要がある場合、射場長（CRO）により認可され、制御されていなければならない。射撃線の前方での行動は、すべての銃がセーフティフラッグを挿入した後、**ショットガン**の場合は**抜弾され開放された後**にのみ、許可される。

射座**または射台**以外の射場内では、射場役員、**レフェリー**または**ジュリー**の指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れるか、**または銃架に立て**ておかなければならない。

射場長、**レフェリー**または他の適切な射場役員は“LOAD”、“START”、“STOP”、“UNLOAD”や他の必要な号令を出す責任がある。射場役員**やレフェリー**は選手が号令に従っているか、銃器を安全に取り扱っているかを確認しなければならない。

銃器や弾倉には、射座、**ショットガンでは射台**において”LOAD”、“START”、**または“LOAD””READY”**の号令の後にもみ装填できる。これ以外のときには**ショットガン**、銃器や弾倉は抜弾されていなければならない。

6.2.3.4 銃弾または空気銃弾または銃弾の入った弾倉が銃に接したとき、銃が装填されたときとみなされる。“LOAD”の号令前には、銃弾や空気銃弾や銃弾の入った弾倉を銃や薬室や銃身に触れさせることはできない。

6.2.3.6 “STOP”の号令か信号があった場合、選手はただちに射撃を中止しなければならない。“UNLOAD”の号令があった場合、全選手は弾を抜き、安全な状態にしなければならない(エアガンを抜弾するときは、射場役員の許可を得ること)。“START”の号令が再び出されたときのみ射撃は再開できる。

6.2.4.1 **空撃ち**とは弾が装填されてない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所でのみ次のルールに従って許可される。

6.2.5 耳の保護
すべての選手、射場役員ならびに25m、50m、300m射場の射線直後に位置する人々は耳栓、イヤーマフまたは類似の聴力保護用具を使用しなければならない。射場敷地内では、警告が明示され、すべての人々が聴力保護用具を使用できなければならない。選手またはコーチは、FOP内では、いかなるタイプの音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターは装着してはならない。競技会役員はFOP内でも音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターの装着を許される。聴覚障害のある選手は、ジュリーの承認を得て、音声拡大装置を身に着けることができる。

銃弾、~~または~~空気銃弾、~~または~~銃弾の入った弾倉またはショットガンの空薬きょうが銃に接したとき、銃が装填されたときとみなされる。“LOAD”の号令前または射台において自身の射順になる前には、銃弾や空気銃弾や銃弾の入った弾倉を銃や薬室や銃身に触れさせることはできない。

“STOP”の号令か信号があった場合、選手はただちに射撃を中止しなければならない。“UNLOAD”の号令があった場合、全選手は弾を抜き、安全な状態にしなければならない(エアガンを抜弾するときは、射場役員の許可を得ること)。“START”または“READY”の号令が再び出されたときのみ射撃は再開できる。

空撃ちとは弾が装填されてない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所や方向でのみ次のルールに従って許可される。
指定された場所以外または指定された方向と違う方向に向けて空撃ちを行っている選手がいた場合、ジュリーの多数決により、安全を理由にその選手は失格となることがある。
ジュリーは指定された場所以外でのテストショットをさせないように、常に確認しなければならない。

6.2.5 耳の保護
6.2.5.1 (ルール番号の新設)
すべての選手、射場役員ならびに25m、50m、300m射場の射線直後に位置する人々は耳栓、イヤーマフまたは類似の聴力保護用具を使用しなければならない。射場敷地内では、警告が明示され、すべての人々が聴力保護用具を使用できなければならない。選手またはコーチは、FOP内では、いかなるタイプの音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターは装着してはならない。競技会役員はFOP内でも音声拡大装置や受信装置を組み込んだイヤープロテクターの装着を許される。聴覚障害のある選手は、ジュリーの承認を得て、音声拡大装置を身に着けることができる。

6.2.6	<p>目の保護 すべての選手に対して、射撃中は、強化ガラスなどの射撃眼鏡または類似の目に対する保護用具を使用すべきである。</p>	6.2.5.2	<p>ショットガン選手が耳の保護具を着けずに、射撃できる状態で射台にいた場合、その選手には、担当レフリーから1回目の違反として、「警告」(イエローカード)が科せられる。競技中またはPETにおいて、2回目の違反が発覚した場合、担当ジュリーより1ターゲットの「減点」(グリーンカード)が科せられる(そのラウンドの第1標的がLOSTとなる)。</p>
6.3.1.1	<p>ISSF選手権大会のライフルおよびピストル種目で用いられる標的は電子標的(EST)または紙標的である。注)紙標的の取り扱いに関する特則は「紙標的に関するルール」として、このルールの付則となっている。</p>	6.3.1.2	<p>ISSF選手権大会のライフルおよびピストル種目で用いられる標的は電子標的(EST)または紙標的であり、ショットガン種目ではクレール標的(通常またはフラッシュ)が用いられる。注)紙標的の取り扱いに関する特則は「紙標的に関するルール」として、このルールの付則となっている。</p>
6.3.1.2	<p>ISSF選手権大会で使用されるすべての標的はこのルールによって与えられる各得点圏の幅、標的の大きさ、その他規定された値が守られていなければならない。</p>	6.3.1.3	<p>ISSF選手権大会で使用されるすべての標的はこのルールによって与えられる各得点圏の幅、標的の大きさ、その他規定された値が守られていなければならない、ISSFの承認を得ていなければならない。</p>
6.4.2 o	<p>休息のとれる食堂または食料提供施設。</p>	6.4.2 w	<p>競技会中に、ISSF代理人またはISSF TDIによりランダムチェックが実施される。</p>
6.4.2 p	<p>十分な数のトイレ。</p>	6.4.2 o	<p>安全な食料の提供と休息のとれる食堂または食料提供施設。</p>
6.4.5.3	<p>50mのライフル、ピストル、ランニングターゲット兼用射場の許容差略</p>	6.4.2 p	<p>十分な数のトイレと手洗い所。</p>
		6.4.2 w	<p>ショットガンファイナルレンジ近くの選手準備場所</p>
			<p>50mのライフル、ピストル、ランニングダムービングターゲット兼用射場の許容差 略</p>

6.4.6.3 50mおよび10mランニングターゲット射場と25mピストル射場における射座の位置の水平方向での許容差
射座の中心は次の位置になければならない。
a) ラピッドファイヤ射場では5つの標的群の中心。
b) ランニングターゲット射場では開口部の中心。

6.4.13 25m電子標的システムの基準
電子標的を使用する場合、計時装置には各標的出現時間に合計0.3秒が加えられるように時間設定されなければならない。この加えられた0.3秒は回転標的における回転時間の許容範囲である+0.1秒と“追加時間”の+0.2秒を合計したものである。追加時間は紙標的を用いた回転標的装置において“スキッドショット”として認められるものを電子標的においても有効弾として採点することを保証するものである。グリーンライトは要求される時間+0.1秒間点灯し、電子標的は時間後追加の0.2秒間有効弾を記録し、採点し続けなければならない。

6.5 c ISSFテクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。

6.6.1.1 公式大会プログラム ISSF事務局は標準的な大会プログラムの提供および選手権大会の前年の11月のISSF組織委員会のためのワークショップ年会の時に完成させるように各組織委員会と公式大会プログラムの準備に協力をする。公式大会プログラムは大会への参加要請、スケジュール、公式シンボルおよびロゴ、参加申込書の様式などを含み、それらはISSFのウェブサイトに掲載されることになり、組織委員会は公式大会プログラムが完成したらできるだけ早くそれを発行し、すべてのISSFの会員連盟に送付しなければならない。

50mおよび10m~~ランニング~~ターゲット射場と25mピストル射場における射座の位置の水平方向での許容差
射座の中心は次の位置になければならない。
a) ラピッドファイヤ射場では5つの標的群の中心。
b) ~~ランニング~~ターゲット射場では開口部の中心。

25m電子標的システムの基準
電子標的を使用する場合、計時装置には各標的出現時間に合計0.3秒が加えられるように時間設定されなければならない。この加えられた0.3秒は回転標的における回転時間の許容範囲である+0.1秒と“追加時間”の+0.2秒を合計したものである。追加時間は紙標的を用いた回転標的装置において“スキッドショット”として認められるものを電子標的においても有効弾として採点することを保証するものである。グリーンライトは要求される時間+0.1秒間点灯し、電子標的は時間後追加の0.2秒間有効弾を記録し、採点し続けなければならない。
現在、多くの25mESTシステムにおいて、レッドライトおよびグリーンライトの両方の表示は標的枠の上部に示される。

ISSFテクニカルデレゲートまたは~~主任~~用具検査ジュリーの**チェアパーソン**は競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。

公式大会プログラム ISSF事務局は標準的な大会プログラムの提供および選手権大会の前年の11月のISSF組織委員会のためのワークショップ年会の時に完成させるように各組織委員会と公式大会プログラムの準備に協力をする。公式大会プログラムは大会への参加要請、スケジュール、公式シンボルおよびロゴ、参加申込書の様式などを含み、それらはISSFのウェブサイトに掲載されることになり、組織委員会は公式大会プログラムが完成したらできるだけ早くそれを発行し、すべてのISSFの会員連盟に送付しなければならない。**ISSF TDは組織委員会とともに選手権大会の全般情報を作成し、その選手権大会の開始6か月前までにオンラインにて公表することが望ましい。**

6.6.1.2 **公式スケジュール** ISSF事務局、組織委員会およびその大会のテクニカルデレゲートは各選手権大会の詳細な公式スケジュールを準備しなければならない。選手権大会のスケジュールには、公式到着日、1日以上公式練習または競技前練習（PET）、競技実施の必要日数と公式出発日が含まれているべきである。世界選手権大会の公式練習日、開閉会式を含めたスケジュールは20日間を超えないようにすべきである。組織委員会の選択として、公式練習日（PET）以前に追加の非公式練習日として射場を開けることはできる。公式スケジュールは公式練習、競技前練習、予選の射群、本選の射群、ファイナル出頭時刻、ファイナルおよび表彰式の日時が入っていないといけない。テクニカルデレゲートによって承認されたスケジュール変更は最終参加締切りの後できるだけ早く作成され、全参加選手団に配布されなければならない。

6.6.1.3 参加資格および制限 国内競技連盟は、ISSF選手権大会で、表彰対象となる選手を各国各種目最大3名参加させることができる。加えてワールドカップ大会では、組織委員会は、ランキングポイント獲得のみ（RPO）、オリンピックMQS資格を争う（MQSのみ）または表彰対象外（OOC）の参加者として各国各種目最大2名の追加選手を受け入れることができる。

6.6.2 **代表者会議（テクニカルミーティング）**
競技会ディレクターとテクニカルデレゲートによって進行される代表者会議は、競技の詳細やスケジュールの変更をチームリーダーに知らせるために、競技開始日の前日に実施する予定がされていなければならない。

6.6.1.2 **公式スケジュール** ISSF事務局、組織委員会およびその大会のテクニカルデレゲートは各選手権大会の詳細な公式スケジュールを準備しなければならない。選手権大会のスケジュールには、公式到着日、1日以上公式練習または競技前練習（PET）、競技実施の必要日数と公式出発日が含まれているべきである。世界選手権大会の公式練習日、開閉会式を含めたスケジュールは20日間を超えないようにすべきである。組織委員会およびISSFの選択として、公式練習日（PET）以前に追加の非公式練習日として射場を開けることはできる。

6.6.1.3 公式スケジュールは**開会式、非公式練習、競技前練習、予選の射群、本選の射群またはショットガンのラウンド、代表者会議、用具検査**、ファイナル出頭時刻、ファイナルおよび表彰式の日時が入っていないといけない。テクニカルデレゲートによって承認されたスケジュール変更は最終参加締切りの後できるだけ早く作成され、全参加選手団に配布されなければならない。

6.6.1.3~~4~~ 参加資格および制限 国内競技連盟は、ISSF選手権大会で、表彰対象となる選手を各国各種目最大3名参加させることができる。加えてワールドカップ大会では、組織委員会は、ランキングポイント獲得のみ（RPO）、オリンピックMQS資格を争う（MQSのみ）または表彰対象外（OOC）の参加者として各国各種目最大2名の追加選手を受け入れることができるが、**その際、その国のその種目の参加者が3名を超えていることが前提となる。**

6.6.1.4 → 6.6.1.5に繰り上げ

代表者会議（テクニカルミーティング）
競技会ディレクターとテクニカルデレゲートによって進行される代表者会議は、競技の詳細やスケジュールの変更をチームリーダーに知らせるために、競技開始日の前日に実施する予定がされていなければならない。**参加チームにとってより有益であるならば、ショットガン種目のための代表者会議を別に設定することができる。**

- 6.6.3.1 公式練習 公式到着日には公式練習を設定しなければならない。
- 6.6.3.2 競技前練習(PET) 競技前練習は各個人種目の予選または本選の前に行われなければならない。もし、ライフル、ピストル、ランニングターゲットの個人種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上(ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上、ランニングターゲットにおいては1射手あたり15分以上)の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。ミックスチーム種目が同様の個人種目の後に続いてある場合、競技実施予定に空き時間があるときには、射座を指定しない形式での競技前練習を予定することができる。
- 6.6.3.3 **非公式練習** 公式練習および競技前練習に加えて、射場が空いているならば、選手は追加の非公式練習の機会を得られるべきである。
- 6.6.6 a 射座と本選における射群の抽選は、テクニカルデレゲートの監督のもと、ランダムに、この目的に合ったコンピュータプログラムで実施されなければならない。2射群以上となる場合、ランキング30位までの選手は第2射群に配置すべきである。
- 6.6.6.2 b 後半のステージの射群は、前半のステージの得点による順位に従い、低い順位の選手が早い射群になるようにする。各射群の射座はくじ引きで決められる。
- 6.7.4.4 携帯電話またはその他の手持ち型の通信装置(例えばタブレットなど)、電子装置または腕時計型装置(例えばスマートウォッチなど)は、射座内において、選手が使用することは許されない。

公式練習 ~~公式到着日には公式練習を~~は、時間が許すならば、プログラムの中に割り当てられる設定しなければならない。

競技前練習(PET) 競技前練習は各個人種目の予選または本選の前に行われなければならない。~~もし~~ライフル、ピストル、~~ランニング~~ムービングターゲットの個人種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上(ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上、~~ランニング~~ムービングターゲットにおいては1射手あたり15分以上)の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。ミックス~~チーム~~種目が同様の個人種目の後に続いてある場合、競技実施予定に空き時間があるときには、射座を指定しない形式での競技前練習を予定することができる。~~もし~~ミックス種目のPETがプログラム内で実施できるときは、30分以上が与えられるべきである。

非公式練習 公式練習および競技前練習に加えて、射場が空いているならば、選手は追加の非公式練習の機会を得られるべきである。~~通常~~、到着日にも設定される。

射座と本選における射群の抽選は、テクニカルデレゲートの監督のもと、ランダムに、この目的に合ったコンピュータプログラムで実施されなければならない。~~2射群以上となる場合、ランキング30位までの選手は第2射群に配置すべきである。~~

後半のステージの射群は、前半のステージの得点による順位に従い、低い順位の選手が早い射群になるようにするが、~~競技が1日で終わる場合は後半のステージの射座割は前半のステージのまま~~でよい。各射群の射座はくじ引きで決められる。

携帯電話またはその他の手持ち型の通信装置(例えばタブレットなど)、電子装置または腕時計型装置(例えばスマートウォッチ、~~フィット~~ネストラッカーなど)は、射座FOP内において、~~選手が使用~~コミュニケーションモードにしてはならない~~することは許されない~~。

- 6.7.4.5 TV放送のある公式ISSFイベントや選手権大会では、10mおよび50mのライフルおよびピストル種目のファイナリストは自身の銃器にライブエイミング装置を装着しなければならない。装置の装着はファイナルに先立ってISSF RTS役員およびスポーツプレゼンテーション技術員および役員の支援と監督により、ファイナル控室で行われる。この装着には十分な時間と手慣れたスタッフおよび役員のサポートの提供がされなければならない。これらの機器はスポーツおよび選手の技術の映像表現およびTV放送に不可欠な要素であり、ISSFイベントにおけるこのサービスの提供を確実にするためにあらゆる措置を施さなければならない。
- 6.7.6.2 b 用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、ランニングターゲットの競技が終了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。
- 6.7.6.2 f 用具検査係は用具検査で検査したそれぞれの銃、射撃ジャケットおよび射撃ズボンの選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票(コントロールカード)に記録し、保存しなければならない。
- 用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、~~ランニング~~ターゲットの競技が終了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。
- 用具検査係は用具検査で検査した~~それぞれの銃、射撃ジャケットおよび射撃ズボン~~全ての用具の選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票(コントロールカード)に記録し、保存しなければならない。
- 6.7.6.2 g 用具検査係は全てのピストルをISSFデータベースに登録し、選手にカードを発行しなければならない。未登録または未記録のピストルは、ISSFルールに違反していないか確認され、選手ごとに登録されなければならない。
- 6.7.6.2 g → 6.7.6.2 h
6.7.6.2 h → 6.7.6.2 i
6.7.6.2 i → 6.7.6.2 j
に順次繰り下げ
- 6.7.6.2 k スキート選手においては、スキートマーカーテープの後部にシール、前部に小形のリベットが付けられる。

6.7.7.2 Bib番号は競技前練習中や競技中の全てのステージを通して常に選手の上着の腰より上の背部に付けられていなければならない。もしBib番号を持っていて付けていない場合、選手は競技することはできない。ファイナルではレポータータイムに新しいBib番号が渡される。

Bib番号は競技前練習中や競技中の全てのステージを通して常に選手の上着の腰より上の背部に付けられていなければならない。もしBib番号を持っていて付けていない場合、選手は競技することはできない。~~ファイナルではレポータータイムに新しいファイナルBib番号が~~は、ショットガンと25mRFPのファイナルに先立って、レポータータイムに渡される。これら以外のライフルやピストルのファイナルにおいては、Bib番号は着けない。

6.7.9.1 d ランニングターゲット種目：銃の重さ、スコープの倍率(10m)、引き金の重さ(50m)およびマーカーテープ。

~~ランニング~~ターゲット種目：銃の重さ、スコープの倍率(10m)、引き金の重さ(50m)およびマーカーテープ。

6.7.9.2 競技後検査に通らなかった選手が出た場合、主任用具検査ジュリーまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されていた用具検査または競技ジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。確認の手順には、検査器具の測定が正確であることを確認するために、ISSF検査器具調整器具の使用が含まれなければならない。

競技後検査に通らなかった選手が出た場合、~~主任用具検査ジュリーのチェアパーソンまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されている他の一人の~~用具検査または競技ジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。確認の手順には、検査器具の測定が正確であることを確認するために、ISSF検査器具調整器具の使用が含まれなければならない。

6.8 a 競技(ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット、ターゲットスプリント)ジュリーは各種目の競技運営を監督する。

競技(ライフル、ピストル、ショットガン、~~ランニング~~ターゲット、ターゲットスプリント)ジュリーは各種目の競技運営を監督する。

6.8 b RTS(成績、計時および採点)ジュリーは採点および成績処理を監督する。

RTS(成績、計時および採点)ジュリーは採点および成績処理を監督するし、公式成績プロバイダーと協力して、大会成績本を作成する。

6.8 d VARシステム VARが使用される場合、担当のジュリーはVARシステムの機能と運用に責任を負い、ファイナル中に必要に応じモニターを操作する。担当ジュリーはシステムの運用を監督し、発表されたプロトコルに従って適切に使用されていることを保証する。

6.8.1 組織委員会に任命された射場役員、RTS役員、レフリーは、 Jury による助言、監督を受けながら、競技会の実質運営に責任を負う。射場役員と Jury は互いに、ISSF ルールに則り、練習および競技を進行していくことに責任を負い、競技会の開催中、公正で公平なルールの実施を確保しなければならない。

組織委員会および ISSF に任命された射場役員、RTS 役員、レフリーは、 Jury による助言、監督を受けながら、競技会の実質運営に責任を負う。射場役員と Jury は互いに、ISSF ルールに則り、練習および競技を進行していくことに責任を負い、競技会の開催中、公正で公平なルールの実施を確保しなければならない。

- 6.8.2 すべてのジュリーは、勤務中には、公式ISSFジュリーベスト(赤色)を着用しなければならない。ジュリーベストはISSF本部から購入しなければならない。すべての射場役員は、勤務中には、見分けのつくベスト(緑色が望ましい)を着用するかまたは見分けのつく方法をとることを推奨する。すべての標的役員または射撃線の前での作業のある係員は蛍光色のベストまたは目立つ腕章を着用することを推奨する。
- 6.8.7 競技中では、ジュリーは選手が撃発しようとするときや速射種目のシリーズ中の接近は避けるべきである。しかしながら、危害予防に関する場合は即座の行動を取らなければならない。
- 6.8.9 ジュリーは競技中、独自の裁定を下す権利を持つが、少しでも疑問のある場合は他のジュリーや射場役員に相談すべきである。チーム役員または選手が一人のジュリーの裁定に同意できない場合、書面の抗議を行う事によって、ジュリーの多数決による裁定を求めることができる。
- 6.8.11 ジュリーは、ISSFルールに従って、提出されたどんな抗議も扱わなければならない。ジュリーは射場役員や直接の関係者との協議後にその抗議に対する裁定を下すものとする。
- 6.8.13 ジュリーはISSFルールに規定されていないあらゆる問題に対して裁定を下さなければならない。そのような裁定は、各選手権大会後にテクニカルデレゲートに提出される主任ジュリーの報告書の中に含まれていなければならない。
- 6.8.15 主任ジュリーはジュリーのスケジュール管理とすべての公式および競技前練習を含むすべての時間に十分な人数のジュリーを確保することに責任を負う。
- 6.8.16 主任ジュリーは、選手権大会後できるだけ早くテクニカルデレゲートを通してISSF事務局長に提出されるジュリーの裁定と行動に関する報告書を準備しなければならない。

すべてのジュリーは、勤務中には、公式ISSF公認ジュリーベスト(赤色)を着用しなければならない。ジュリーベストはISSF本部承認サプライヤーから購入しなければならない。すべての射場役員は、勤務中には、見分けのつくベスト(緑色が望ましい)を着用するかまたは見分けのつく方法をとることを推奨する。すべての標的役員または射撃線の前での作業のある係員は蛍光色のベストまたは目立つ腕章を着用することを推奨する。

競技中では、ジュリーは選手が撃発しようとするときや速射種目のシリーズ中または射台にいる場合の接近は避けるべきである。しかしながら、危害予防に関する場合は即座の行動を取らなければならない。

ジュリーは競技中、独自の裁定を下す権利を持つが、少しでも疑問のある場合は他のジュリーや射場役員またはレフェリーに相談すべきである。チーム役員または選手が一人のジュリーの裁定に同意できない場合、書面の抗議を行う事によって、ジュリーの多数決による裁定を求めることができる。

ジュリーは、ISSFルールに従って、提出されたどんな抗議も扱わなければならない。ジュリーは射場役員またはレフェリーや直接の関係者との協議後にその抗議に対する裁定を下すものとする。

ジュリーはISSFルールに規定されていないあらゆる問題に対して裁定を下さなければならない。そのような裁定は、各選手権大会後にテクニカルデレゲートに提出される主任ジュリーチェアパーソン(Chairperson)の報告書の中に含まれていなければならない。

主任ジュリーチェアパーソンはジュリーのスケジュール管理とすべての公式および競技前練習を含むすべての時間に十分な人数のジュリーを確保することに責任を負う。

主任ジュリーチェアパーソンは、選手権大会後できるだけ早くテクニカルデレゲートを通してISSF事務局長に提出されるジュリーの裁定と行動に関する報告書を準備しなければならない。

6.9.1 射場長(CRO)の任務と職務

射場長(CRO)は射場ごとに任命されなければならない。射場長はすべての射場役員と射場勤務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。射場長はすべての射場内の号令の発令に責任を負い、すべての射場勤務員がジュリーに対して協力することを保証する責任をも負う。射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門家や資材を確保する責任を負う。射場長の支援、特に種目や競技中に生じた不測の事態に関する射場の文書や射場事故報告書(様式IR)の維持管理、のために副射場長の任命を強く推奨する。

6.9.2 射場役員(RO)の任務と職務

射場役員(RO)は標的グループの各セクションまたは10射座ごとに任命されなければならない。

6.9.4 RTS役員(RTSO)の任務と職務

本選の行われる射場ごとに1名のRTSOが任命されるべきである。RTSOは各射場において、RTSジュリー、競技ジュリー、射場役員および公式成績作成員とともに採点と成績処理の実施を進める。

6.11.1 10mおよび50mライフルとピストル種目のルール

6.11.6.3 選手が試射を別の選手の本射的に誤射した場合、撃ち込んだ選手は自分の第1シリーズの得点から2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。

6.11.6.5 本射的に規定数以上の弾痕がある場合、それらの弾痕が他の選手から撃ち込まれたものであることが確認できなかったときには、弾数に応じて、高得点の弾痕から順に無効とされなければならない。

射場長(CRO)の任務と職務

射場長(CRO)は射場ごとに(全ショットガン射場に1名のみ)任命されなければならない。射場長はすべての射場役員と射場勤務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。射場長はすべての射場内の号令の発令に責任を負い、すべての射場勤務員がジュリーに対して協力することを保証する責任をも負う。射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門家や資材を確保する責任を負う。射場長の支援、特に種目や競技中に生じた不測の事態に関する射場の文書や射場事故報告書(様式IR)の維持管理、のために副射場長の任命を強く推奨する。

射場役員(RO)の任務と職務(ショットガンを除く)

射場役員(RO)は標的グループの各セクションまたは10射座ごとに任命されなければならない。

RTS役員(RTSO)の任務と職務(ショットガンを除く)

本選の行われる射場ごとに1名のRTSOが任命されるべきである。RTSOは各射場において、RTSジュリー、競技ジュリー、射場役員および公式成績作成員とともに採点と成績処理の実施を進める。

10mおよび50mライフルとピストルおよび300mライフル種目のルール

選手が試射または本射を別の選手の本射的に誤射した場合、撃ち込んだ選手は自分の第1シリーズの得点から2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。

本射的に規定数以上の弾痕がある場合、それらの弾痕が他の選手から撃ち込まれたものであることが確認できなかったときには、弾数に応じて、高得点の弾痕から順に無効とされなければならない。6.11.5も適用。

6.11.8 a すべての大会において、準備および試射時間中にその種目に関する情報を観客に伝えるためにアナウンスおよび/または映像を使用することができる。準備および試射時間中、予選、本選の競技中に、音楽を流すことができる。ファイナルの競技中には音楽を流さなければならない(6.17.1.11)。

すべての大会において、準備および試射時間中にその種目に関する情報を観客に伝えるためにアナウンスおよび/または映像を使用することができる。準備および試射時間中、予選、本選の競技中に、音楽を流すことができる~~さ~~なければならない。ファイナルの競技中には~~も~~音楽を流さなければならない(6.17.1.11)。

6.11.8 f FOP内での選手、コーチおよびチーム役員による携帯電話、トランシーバー、ポケットベルまたは同様の装置の使用は禁止される。すべての携帯電話等の電源は切られているかサイレントモードになっていなければならない。

FOP内での選手、コーチおよびチーム役員による携帯電話、トランシーバー、ポケットベルまたは同様の装置の使用は禁止される。どのような電子機器もFOPで活動中はコミュニケーションモードにしてはならない。すべてのこれには携帯電話等の電源は切られているかサイレントモードになっていなければならないも含まれる。6.7.4.4参照。

6.11.9 競技手順—本選および予選ステージ

競技手順—**個人戦**の本選および予選ステージ

6.11.9.2 50mライフル三姿勢の男子および女子種目

本射弾数および制限時間	各姿勢20発、膝射—伏射—立射の順で射撃 1時間30分(90分)
-------------	-------------------------------------

本射弾数および制限時間	各姿勢20発、膝射—伏射—立射の順で射撃 1時間45分(105分)屋外射場使用時 1時間30分(90分) 屋内射場使用時
-------------	--

6.11.9.4 300mライフル伏射の男子および女子種目

本射弾数および制限時間	
電子標的	60発 50分
紙標的(監的壕使用または標的交換機)	60発 1時間15分(75分)

本射弾数および制限時間	
電子標的	60発 50分1時間
紙標的(監的壕使用または標的交換機)	60発 1時間15分(75分)

6.11.9.5 300mスタンダードライフルの男子および女子種目

この種目は、以下の点を除き、50mライフル三姿勢種目と同様に行われる。

300mスタンダードライフルの男子および女子種目

この種目は、**以下の点を除き屋外射場で実施される**、50mライフル三姿勢種目と同様に行われる。

6.11.9.6 25mラピッドファイアピistol男子種目

ファイナル出場者数	本選上位6名がファイナルに進出する
-----------	-------------------

ファイナル出場者数	本選上位 68 名がファイナルに進出する
-----------	-----------------------------

6.11.9.7 25mピistol女子種目/25mセンターファイアピistol種目

種目の名前	25mピistol女子 25mピistol少年女子 25mピistol少年男子 25mセンターファイアピistol男子
-------	--

種目の名前	25mピistol女子 25mピistol少年女子 25mセンターファイアピistol女子 25mピistol少年男子 25mセンターファイアピistol男子
-------	--

6.11.9.8 50mピistol種目

種目の名前	50mピストル男子 50mピストル少年男子
-------	--------------------------

種目の名前	50mピストル男子 50mピストル少年男子 50mピストル女子 50mピストル少年女子
-------	--

6.11.9.9 **25mスタンダードピストル種目**

種目の名前	25mスタンダードピストル男子 25mスタンダードピストル少年男子
-------	--------------------------------------

6.12.3 c チームメンバーを指定時刻に指定射座に承認済みの用具を携えて出頭させ、射撃の準備をさせる。

6.12.4 a 指定時刻に指定射座にルールに適応した用具を携えて出頭し射撃の準備をする。

6.12.5.1 全ての種目において、言葉によらないコーチングは許される。文字で書かれたものは言葉によるものではない。50mライフル3姿勢のファイナルにおいては姿勢切り替えの時間中のみ言葉によるコーチングが許される。選手が射撃線についているときには、選手はジュリーおよび射場役員とのみ話すことができる。練習中のコーチングは、他の選手の邪魔にならないなら、許される。

6.12.5.2 選手が予選または本選中にコーチやチーム役員と話したい場合、選手は抜弾して銃の薬室を開けセーフティフラッグを挿入し安全な状態にして射撃線に置かなければならない。選手はその旨を射場役員に通告した後でのみ射撃線を、他の選手の妨げにならないようにして、離れることができる。

種目の名前	25mスタンダードピストル男子 25mスタンダードピストル少年男子 25mスタンダードピストル女子 25mスタンダードピストル少年女子
-------	--

チームメンバーを指定時刻に指定射座**または指定射場**に承認済みの用具を携えて出頭させ、射撃の準備をさせる。

指定正しい時刻に指定自身の射座または射場にルールに適応した用具を携えて出頭し射撃の準備をする。

全ての種目において、言葉によらないコーチングは許される。文字で書かれたものは言葉によるものではない。**音声を伴わない手話も同様である。50mライフル3姿勢のファイナルにおいては姿勢切り替えの時間中のみ言葉によるコーチングが許される。**選手が射撃線についているときには、選手はジュリーおよび射場役員とのみ話すことができる。練習(PETを含む)中のコーチングは、他の選手の邪魔にならないなら、許される。

6.12.5.2 2026年のISSF世界選手権大会から、有効な「A」または「B」ISSFコーチライセンスを保有し、チーム役員として登録されているコーチのみが、PET、予選、本選中にFOPに立ち入ることができ、ファイナルにおいて、ファイナル射場のコーチ席に着くことが許される。

6.12.5.3 選手が予選または本選中にコーチやチーム役員と話したい場合、選手は抜弾して銃の薬室を開けセーフティフラッグを挿入し安全な状態にして射撃線に置かなければならない。選手はその旨を射場役員に通告した後でのみ射撃線を、他の選手の妨げにならないようにして、離れることができる。この条項はライフルおよびピストルで用いられ、ショットガンでは用いられない。

6.12.5.3 コーチまたはチーム役員が射撃線にいる選手と話したい場合、選手が射撃線にいる間は選手に直接連絡したり話しかけたりしてはならない。チーム役員は射場役員またはジュリーの許可を得た上で選手を射撃線から呼び出してもらわなければならない。

6.12.5.4 コーチまたはチーム役員が射撃線にいる選手と話したい場合、選手が射撃線にいる間は選手に直接連絡したり話しかけたりしてはならない。チーム役員は射場役員またはジュリーの許可を得た上で選手を射撃線**または射台**から呼び出してもらわなければならない。

6.12.5.4 → 6.12.5.5
に繰り下げ

- 6.12.6.1 a 明白なルール違反の場合、最初に、選手が違反を修正する機会を持つことができるように、警告（イエローカード）が与えられなければならない。可能な限り、警告は練習時か準備および試射時間中に与えるべきである。選手がジュリーの規定した時間内に違反を修正しない場合、得点からの2点の減点が科せられなければならない。減点（グリーンカード）を受けてなお選手が違反を修正しなかった場合には、失格（レッドカード）（DSQ）が科せられなければならない。
- 6.12.6.1 c 事態の説明を求められた選手が故意に偽りの情報を与えた場合、2点の減点が科せられなければならない。悪質な場合、失格を科すこともできる。
- 6.12.6.2 a 警告（イエローカード）：警告はイエロー・カードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーが与えることができる。与えられた警告は更なる違反に対して繰り越されなければならない。
- 6.12.6.2 b 減点（グリーンカード）：得点からの減点は、個人のジュリーにより、減点と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。多くの場合、2点の減点が科されるが、時間外発射やファイナルにおける空撃ちのような例外的な事項では関連したルールが示されている。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙に印が付けられ、個票に記入されなければならない。そしてRTSジュリーに即座に報告されなければならない。減点に際しそれに先立つ警告を必要としない。

明白なルール違反の場合、最初に、選手が違反を修正する機会を持つことができるように、警告（イエローカード）が与えられなければならない。可能な限り、警告は練習時か準備および試射時間中に与えるべきである。選手がジュリーの規定した時間内に違反を修正しない場合、得点からの2点の減点が科せられなければならない（**2度目の違反が起こったラウンドの最初の2ヒットターゲット**）。減点（グリーンカード）を受けてなお選手が違反を修正しなかった場合には、失格（レッドカード）（DSQ）が科せられなければならない。

事態の説明を求められた選手が故意に偽りの情報を与えた場合、2点の減点が科せられなければならない（**疑問点のあった直前のラウンドの最初の2ヒットターゲット**）。悪質な場合、失格を科すこともできる。

警告（イエローカード）：警告はイエローカードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリー**またはレフェリー**が与えることができる。与えられた警告は更なる**同様の**違反に対して繰り越されなければならない。

減点（グリーンカード）：得点からの減点は、個人のジュリー**またはレフェリー**により、減点と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。多くの場合、2点の減点が科されるが、時間外発射やファイナルにおける空撃ちのような例外的な事項では関連したルールが示されている。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙**またはショットガンにおけるスコアカード**に印が付けられ、個票に記入されなければならない。そしてRTSジュリーに即座に報告されなければならない。減点に際しそれに先立つ警告を必要としない。

6.12.6.2.d 非スポーツマン行為 (DQB) : 安全に関する深刻な違反または競技役員または他の選手に対する暴力行為 (6.12.6.4) でジュリーの多数決により失格となった選手については、その選手権大会におけるその選手の参加した全種目の成績が抹消され、DQBと表示されなければならない。

6.12.6.4 **競技役員または選手に対する暴力行為**
ジュリー、レフリー、射場役員、他の競技役員または他の選手に対し、つかむ、押す、突く、殴るまたは似たような方法で身体的接触を行った選手またはチーム役員は、その選手権大会から除外されることもある。このような身体的暴行はその種目を統括する責任を負う主任ジュリーに報告されなければならない。申し立ての暴行行為を裏付ける目撃者または物的証拠が1つ以上確認されなければならない。その後、ジュリーはその選手またはチーム役員を選手権から除外すべきかどうかの決断をしなければならない。除外の決定は上訴ジュリーに上訴することができる(6.16.6)。もしジュリーや上訴ジュリーがその暴力行為の重大性によりさらなる制裁を科すことが正当であると結論を下したならば、該当選手やチーム役員のその大会からの除外に加えて、さらなる検討のためにISSF倫理委員会 (GR3.12.3.5、様式CE) に付託することができる。

6.13.7 射場役員またはジュリーは故障が射場事故報告書または故障採点票に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

6.14.4 各ISSF選手権大会の後、ISSF本部は電子版(オンライン版)公式成績本を発行する。各選手権大会の公式成績本には次の事項が含まれなければならない。

非スポーツマン行為 (DQB) : 安全に関する深刻な違反または競技役員または他の選手に対する暴力または暴言行為 (6.12.6.4) でジュリーの多数決により失格となった選手については、その選手権大会におけるその選手の参加した全種目の成績が抹消され、DQBと表示されなければならない。

競技役員または選手に対する暴力または暴言行為
ジュリー、レフリー、射場役員、他の競技役員または他の選手に対し、**暴言または**つかむ、押す、突く、殴るまたは似たような方法で身体的接触を行った選手またはチーム役員は、その選手権大会から除外されることもある。このような身体的暴行**または暴言**はその種目を統括する責任を負う**主任**ジュリー**チェアパーソン**に報告されなければならない。申し立ての暴行行為を裏付ける目撃者または物的証拠が1つ以上確認されなければならない。その後、ジュリーはその選手またはチーム役員を選手権から除外すべきかどうかの決断をしなければならない。除外の決定は上訴ジュリーに上訴することができる(6.16.6)。もしジュリーや上訴ジュリーがその暴力行為の重大性によりさらなる制裁を科すことが正当であると結論を下したならば、該当選手やチーム役員のその大会からの除外に加えて、さらなる検討のためにISSF倫理委員会 (GR3.12.3.5、様式CE) に付託することができる。

6.13.7 ショットガンの故障に関する特例ルールは9. 12にある。

6.13.8 射場役員、**レフリー**またはジュリーは故障が射場事故報告書または故障採点票に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

各ISSF選手権大会の後、**ISSF本部公式ISSF成績プロバイダー**は電子版(オンライン版)公式成績本を発行する。各選手権大会の公式成績本には次の事項が含まれなければならない。

6.14.4 d 国別および種目別参加者一覧

6.14.4.i ISSF基準の種目順に並べられた最終成績表: 1) 男子の10m、50m、300mライフル種目、2) 男子の10m、25m、50mピストル種目、3) 男子のトラップ、スキート、ダブルトラップ種目、4) 男子の10m、50mランニングターゲット種目、5) 男子の団体種目、6) 女子の10m、50m、300mライフル種目、7) 女子の10m、25mピストル種目、8) 女子のトラップ、スキート、ダブルトラップ種目、9) 女子の10mランニングターゲット種目、10) 女子の団体種目、11) 10m、25m、50m、300m、トラップ、スキートのミックス種目

6.14.4.2の表

5行目	WR	New World Record (世界新記録)
7行目	EWR	Equaled World Record (世界タイ記録)

6.14.6 不規則弾痕、誤射、ペナルティ、標的枠外弾痕(0点)、故障、時間延長、再射、無効弾などは、審査室で慎重に取り扱われるよう、射場役員やジュリーによって、すべて射場事故報告書、個票、プリンター用紙に明確に印を付け、記録されなければならない。射場事故報告書(様式IR)の完全なコピーはRTS室に即座に運ばなければならない。各競技の終了時には、RTSジュリーはすべての故障による再計算と減点が正しく成績に反映されているかを確認するために成績表を点検しなければならない。

6.14.7 ライフルおよびピストル種目の得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第1シリーズの最も低い得点から行われなければならない。

6.14.9 世界記録

GR3.9(6.1.2 bも参照)に従って行われるすべてのISSF選手権大会で行われる金メダルの授与されるすべてのISSF種目において世界記録が認められる。

国別 ~~および種目別~~ 参加者一覧

ISSF基準の種目順に並べられた最終成績表: 1) 男子の10m、50m、300mライフル種目、2) 男子の10m、25m、50mピストル種目、3) 男子のトラップ、スキート、~~ダブルトラップ~~種目、4) 男子の10m、50m ~~ランニング~~ ~~ターゲット~~種目、5) 男子の団体種目、6) 女子の10m、50m、300mライフル種目、7) 女子の10m、25mピストル種目、8) 女子のトラップ、スキート、~~ダブルトラップ~~種目、9) 女子の10m ~~ランニング~~ ~~ターゲット~~種目、10) 女子の団体種目、11) 10m、25m、50m、300m、トラップ、スキートのミックス種目

WR	New World Record in a Final (世界新記録)
EWR	Equaled World Record in a Final (世界タイ記録)

不規則弾痕、誤射、ペナルティ、標的枠外弾痕(0点)、故障、時間延長、再射、無効弾などは、審査室で慎重に取り扱われるよう、射場役員やジュリーによって、すべて射場事故報告書、個票、プリンター用紙、**およびショットガンではスコアカード**に明確に印を付け、記録されなければならない。射場事故報告書(様式IR)の完全なコピーはRTS室に即座に運ばなければならない。各競技の終了時には、RTSジュリーはすべての故障による再計算と減点が正しく成績に反映されているかを確認するために成績表を点検しなければならない。

ライフル **および**、ピストル **およびショットガン**種目の得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズ **またはラウンド**で行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第1シリーズの最も低い得点から行われなければならない。

世界記録

GR3.9(6.1.2 bも参照)に従って行われるすべてのISSF選手権大会で行われる金メダルの授与されるすべてのISSF種目において世界記録が認められる。**どの記録も(試合で)表彰対象となる選手によって出されたもののみ認められる。RPO、MQSのみまたはOOC資格で参加した選手の出した記録では認められない。**

6.15.3 ランニングターゲット種目の同点（10.12参照）

~~ランニング~~ダムーピングターゲット種目の同点（10.12参照）

6.16.3 書面抗議(リターン プロテスト)

選手またはチーム役員は、口頭抗議に対する処置や裁定に**同意できない**場合、 Jury に書面をもって抗議することができる。選手またはチーム役員には**口頭抗議**をすることなく**書面抗議**を行う権利も持つ。すべての書面抗議はその問題が起きてから20分以内に適切な Jury に提出されなければならない。抗議料の支払義務は発生する。書面抗議および上訴は**ISSF抗議用紙**(様式6.19参照)で提出されなければならない。

6.16.4 d 抗議料は抗議または上訴が認められた場合は返却されなければならないが、却下された場合には組織委員会が収納する。

6.17 オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル

6.17.1 ファイナル競技の全般手順 これらの手順は10m、25mおよび50mのライフルおよびピストルの個人種目のすべてのファイナルに用いられる。各種目の手順については、以下の条文中に記載されている。

6.17.2 - 10mエアライフルおよび10mエアピストルの男子および女子種目

6.17.3 - 50mライフル三姿勢の男子および女子種目

6.17.4 - 25mラピッドファイアピストル男子種目

6.17.5 - 25mピストル女子種目

6.18 - 10mエアライフルおよび10mエアピストルのミックス種目
ショットガン種目の手順については6.19に示されている。

6.17.1.1 ファイナルへの進出 その種目のファイナル進出者を決めるために、その種目に出場するすべての選手が本選(GR3.3.5および3.3.6.5)を行う。本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

書面抗議(リターン プロテスト)

選手またはチーム役員は、口頭抗議に対する処置や裁定に**同意できない**場合、 Jury に書面をもって抗議することができる。選手またはチーム役員には**口頭抗議**をすることなく**書面抗議**を行う権利も持つ。すべての書面抗議はその問題が起きてから、**または事態の起こったラウンドが終わったあと**20分以内に適切な Jury に提出されなければならない。抗議料の支払義務は発生する。書面抗議および上訴は**ISSF抗議用紙**(様式6.19参照)で提出されなければならない。

抗議**および**上訴料は抗議または上訴が認められた場合は返却されなければならないが、却下された場合には組織委員会が収納する。

オリンピックのライフルおよびピストル**個人**種目のファイナル

ファイナル競技の全般手順 これらの手順は10m、25mおよび50mのライフルおよびピストルの個人種目のすべてのファイナルに用いられる。各種目の手順については、以下の条文中に記載されている。

6.17.2 - 10mエアライフルおよび10mエアピストルの男子および女子種目

6.17.3 - 50mライフル三姿勢の男子および女子種目

6.17.4 - 25mラピッドファイアピストル男子種目

6.17.5 - 25mピストル女子種目

6.18 - 10mエアライフルおよび10mエアピストルのミックス種目
ショットガン種目の手順については**6.19.17**に示されている。

ファイナルへの進出 その種目のファイナル進出者を決めるために、その種目に出場するすべての選手が本選(GR3.3.5および3.3.6.5)を行う。**本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き**、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

6.17.1.2 ファイナルの射座 ファイナルの射座はスタートリストが発表される時には、コンピューターによって自動的行われるくじによって作成される。10mおよび50mの射座はR1-A-B-C-D-E-F-G-H-R2と表示されなければならない。25mピストル女子のファイナルの射座はA-B-R1-D-E/F-G-R2-I-Jと表示されなければならない。予備的はR1およびR2と示される。

6.17.1.3 **出頭時刻と開始時刻** ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも30分前にはファイナル射場のプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、2点もしくは2ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられる。その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。 Juryは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。 Juryは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。ファイナル中の警備体制は、待機場所に置かれている全ての用具および選手の所持品の安全を確保するものとすべきである。

6.17.1.4 **遅刻** 出頭時刻から10分後までにプレパレーションエリアに出頭していないファイナリストはファイナルに参加することはできず、DNSが表示されファイナルにおける最初の脱落選手として記録される。その際のファイナルにおける第一エリミネーションは第7位または25mRFPでは第5位の選手の決定から始まる。

ファイナルの射座 ファイナルの射座はスタートリストが発表される時には、コンピューターによって自動的行われるくじによって作成される。10mおよび50mの射座はR1-A-B-C-D-E-F-G-H-R2と表示されなければならない。25mピストル女子のファイナルの射座はA-B-R1-~~DC-ED~~/~~FE-GF~~-R2-~~IG-JH~~と表示されなければならない。予備的はR1およびR2と示される。**25mラピッドファイアピストルではA-B/C-Dと示される。**

出頭時刻と開始時刻 ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも30分前にはファイナル射場のプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、2点もしくは2ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられ、**25m種目では2ヒットの減点はその選手の最初の2ヒットに科せられる。**その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。 Juryは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。 Juryは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。ファイナル中の警備体制は、待機場所に置かれている全ての用具および選手の所持品の安全を確保するものとすべきである。

遅刻 出頭時刻から10分後までにプレパレーションエリアに出頭していないファイナリストはファイナルに参加することはできず、DNSが表示されファイナルにおける最初の脱落選手として記録される。その際のファイナルにおける第一エリミネーションは第7位**または25mRFPでは第5位**の選手の決定から始まる。

6.17.1.6 **10mおよび50m種目のファイナルにおける故障**本射1発の間に発生した許容される故障(6.13.2)については、故障の修理または銃の交換のために最大1分間を与えられ、その後選手は再射を命じられる。5発シリーズで許容される故障が発生した場合で、故障の修理や銃の交換が1分以内に行えるならば、そのシリーズで発射されている弾による得点は集計され、選手は故障を申告した時の残り時間に加えて修理や交換に要した1分を超えない時間分の時間の中でそのシリーズを完射することが許される。ファイナリストはファイナル中に1回のみ許容される故障が申告できる。

6.17.1.10 b **競技ジュリー** 競技ジュリーはファイナルの進行の監督を行う。主任ジュリーは自分自身またはジュリーメンバーから一名の担当ジュリーを任命しなければならない。

6.17.1.10 d **ファイナル抗議ジュリー** テクニカルデレゲートおよび主任ジュリーから任命された上訴ジュリーの一名と担当ジュリーおよび別の一名の競技ジュリーがファイナル抗議ジュリーとして行動すべきであり、ファイナル中に生じたあらゆる抗議に対して裁定を下さなければならない。このファイナル抗議ジュリーの裁定に対する上訴は許されない。

6.17.1.12 **ファイナリストの紹介** 試射時間または試射シリーズの後、ライフル種目のファイナリストはそのままの姿勢で留まり、ライフルを肩から外して降ろし、観客およびTVカメラの方へ顔を向けなければならない。すべてのピストル種目のファイナリストは銃を置き、観客に向き合うように振り向かななければならない。アナウンサーは各ファイナリストをその氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

6.17.1.13 d ファイナルにおける抗議が認められなかった場合、2点の減点が最終弾の得点または2ヒットの減点が最終シリーズの得点に科せられなければならない。

10mおよび50m種目のファイナルにおける故障本射1発の間に発生した許容される故障(6.13.2)については、故障の修理または銃の交換のために最大1分間を与えられ、その後選手は再射を命じられる。5発**または10発**シリーズで許容される故障が発生した場合で、故障の修理や銃の交換が1分以内に行えるならば、そのシリーズで発射されている弾による得点は集計され、選手は故障を申告した時の残り時間に加えて修理や交換に要した1分を超えない時間分の時間の中でそのシリーズを完射することが許される。ファイナリストはファイナル中に1回のみ許容される故障が申告できる。

競技ジュリー 競技ジュリーはファイナルの進行の監督を行う。**主任**ジュリー**チェアパーソン**は自分自身またはジュリーメンバーから一名の担当ジュリーを任命しなければならない。

ファイナル抗議ジュリー テクニカルデレゲートおよび**主任**ジュリー**チェアパーソン**から任命された上訴ジュリーの一名と担当ジュリーおよび別の一名の競技ジュリーがファイナル抗議ジュリーとして行動すべきであり、ファイナル中に生じたあらゆる抗議に対して裁定を下さなければならない。このファイナル抗議ジュリーの裁定に対する上訴は許されない。

ファイナリストの紹介 “ATHLETES TO THE LINE (アスリート トゥー ザ ライン)” の号令後、選手は一人ずつ入場し、その時にアナウンサーは各**ファイナリスト選手**をその氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

ファイナルにおける抗議が認められなかった場合、2点**の減点が最終弾の得点**または2ヒットの減点が**最終抗議に関わる弾**またはシリーズの得点に科せられなければならない。

6.17.1.14 b **出頭および用具のセットアップ**：プレパレーションエリアでの出頭報告の後、ファイナル開始時刻の20分前（25mピストル種目の場合は15分前）には、ファイナリストまたはコーチは選手の銃や用具を自分の射座に置くことが許されなければならない。銃ケースや用具バッグはFOPに残して置いてはならない。この時には照準練習は許可されない。その後、選手は、ウォームアップや準備のために射線に呼ばれるまで、プレパレーションエリアに戻っておかなければならない。コーチはFOP内にある自席に座る。

6.17.1.14 c **選手の入場**：射場役員は、開始時刻の12分前に、ファイナル射場の近くに選手が一行に並ぶように指示を出す。ライフルのファイナリストがプレパレーションエリアから射線に呼ばれたとき、ファイナリストはジャケットやズボンのボタンやファスナーを閉じた状態の完全な服装で射線まで歩いていかなければならない。射場長は“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トゥー ザ ライン)”と号令をかける。

6.17.1.14 e **空撃ち**：ファイナルにおいて、空撃ちが許されるのは、6.17.4によって認められている25mラピッドファイアピストルのファイナル中の空撃ちを除き、準備および試射時間、姿勢の切換えと試射時間、または準備時間中に限られる。そのほかの時の空撃ちは、10mおよび50m種目においては1点、25mピストル種目においては1ポイントの減点とされなければならない。

6.17.1.14 g **据銃および照準練習**：ファイナルにおいて据銃および照準練習はファイナリストが射線に呼び出されて（“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トゥー ザ ライン)”の号令）からファイナル終了の“STOP UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令がかかるまでの間、据銃や照準練習のできない選手紹介の時間をのぞいて、行うことが許される。

出頭および用具のセットアップ：プレパレーションエリアでの出頭報告の後、ファイナル開始時刻の少なくとも20分前（~~25mピストル種目の場合は15分前~~）には、ファイナリストまたはコーチは選手の銃や用具を自分の射座に置くことが許されなければならない。銃ケースや用具バッグはFOPに残して置いてはならない。この時には照準練習は許可されない。その後、選手は、**紹介やウォームアップや準備のために射線に呼ばれるまで準備をするため**、プレパレーションエリアに戻っておかなければならない。コーチはFOP内にある自席に座る。

選手の入場：射場役員は、開始時刻の~~12~~**10**分前に、ファイナル射場の近くに選手が一行に並ぶように指示を出す。ライフルのファイナリストがプレパレーションエリアから射線に呼ばれたとき、ファイナリストはジャケットやズボンのボタンやファスナーを閉じた状態の完全な服装で射線まで歩いていかなければならない。射場長は“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トゥー ザ ライン)”と号令をかける。

空撃ち：ファイナルにおいて、空撃ちが許されるのは、~~6.17.4~~**によって認められている25mラピッドファイアピストルのファイナル中の空撃ちを除き**、準備および試射時間、姿勢の切換えと試射時間、または準備時間中に限られる。そのほかの時の空撃ちは、10mおよび50m種目においては1点、25mピストル種目においては1**ポイントヒット**の減点とされなければならない。

据銃および照準練習：ファイナルにおいて据銃および照準練習はファイナリストが射線に呼び出されて（~~“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トゥー ザ ライン)”~~**TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)**”の号令）からファイナル終了の“STOP UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令がかかるまでの間、据銃や照準練習のできない選手紹介の時間をのぞいて、行うことが許される。**25mRFPMのファイナルにおける据銃練習については6.17.4 hおよび6.17.4 qにある。**

6.17.1.14 j **25mピストルー時間前発射**：25mラピッドファイアピストル男子のファイナルでファイナリストがシリーズの開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、そのシリーズは0ヒットと採点されなければならない。25mピストル女子のファイナルでファイナリストが採点開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、その発射弾はミスと採点されかつそのシリーズの得点から1点の減点が科せられなければならない。

25mピストルー時間前発射：25mラピッドファイアピストル男子のファイナルでファイナリストがシリーズの開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射し、**シリーズが始まった場合、そのシリーズは0ヒットと残った4発の得点によって採点されなければならない**、さらに**1ヒットの減点が科せられる**。25mピストル女子のファイナルで、**シリーズが始まったあと、ファイナリストが採点開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、その発射弾はミスと採点されかつそのシリーズの得点から1点1ヒットの減点が科せられなければならない**。シリーズは”ATTENTION（アテンション）”の号令により始まるとする。もしシリーズ開始前に弾を発射した場合、その弾は本射として数えられず、その後の再射または完射のシリーズの得点から1ヒット減点されなければならない。暴発を起こした選手はシリーズを続けてはならず、8.8.2.3に従って行動しなければならない。この手順に従わずそのままシリーズを続行した場合、得点はそのシリーズで採点されたものが採用される。

6.17.1.14 k **10mライフルおよびピストルー時間前発射**：10mファイナルの選手が”LOAD（ロード）”の号令のあと”START（スタート）”の号令の前に弾を発射した場合、その得点は0点となる。

6.17.1.14 k → 6.17.1.14 l
6.17.1.14 l → 6.17.1.14 m
6.17.1.14 m → 6.17.1.14 n
6.17.1.14 n → 6.17.1.14 o
6.17.1.14 o → 6.17.1.14 p
6.17.1.14 p → 6.17.1.14 q
6.17.1.14 q → 6.17.1.14 r
6.17.1.14 r → 6.17.1.14 s
6.17.1.14 s → 6.17.1.14 t
6.17.1.14 t → 6.17.1.14 u
6.17.1.14 u → 6.17.1.14 v
に繰り下げ

6.17.1.14 n **コーチング**：ファイナルの間、言葉によらないコーチングは許される。三姿勢種目の姿勢切り替えの時間にのみ言葉によるコーチングが許される。

6.17.1.14 u **国別標示（ドレスコード）**：選手はISSFドレスコードに沿った射撃服装を身に付けなければならない（6.22）。ライフル選手は、次に示すように射撃ジャケットに国別標示をつけなければならない。国旗またはIOCで決められた3文字の国名略号を聴衆に面する側のポケットか背中の中の低い部分につける。

6.17.2 d **ウォームアップ時間（13分前）** 射場長は開始時刻の13分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE(アスリートゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。
2分後、射場長は“FIVE(5) MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と号令する。
5分後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”と号令をかける。
試射中は得点のアナウンスは行わない。

6.17.1.14 ~~no~~ **コーチング**：ファイナルの間、言葉によらないコーチングは許される。~~三姿勢種目の姿勢切り替えの時間に~~25mRPFMのファイナルの装弾エリアでのみ、言葉によるコーチングが許される。

6.17.1.14 ~~uv~~ **国別標示（ドレスコード）**：選手はISSFドレスコードに沿った射撃服装を身に付けなければならない（6.2220）。ライフル選手は、次に示すように射撃ジャケットに国別標示をつけなければならない。国旗またはIOCで決められた3文字の国名略号を聴衆に面する側のポケットか背中の中の低い部分につける。

ウォームアップ時間（約~~13~~10分前） 射場長は開始時刻の~~13~~10分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE(アスリートゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。
~~選手は一人ずつ入場し、紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。全ての紹介が終わった後、射場長は~~“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。
~~2分~~ライフルは30秒後、ピストルは10秒後、射場長は“FIVE(5) MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。
準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と号令する。
5分後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”と号令をかける。
試射中は得点のアナウンスは行わない。
標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。
60秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。

6.17.2 e と f を削除
これにより
6.17.2 g → 6.17.2 e
6.17.2 h → 6.17.2 f
6.17.2 i → 6.17.2 g
6.17.2 j → 6.17.2 h
6.17.2 k → 6.17.2 i
に繰り上げ

6.17.3 a ファイナルの様式

ファイナルは各姿勢（膝射、伏射、立射の順）15発の号令による本射で構成される。ファイナルは各シリーズ200秒の膝射5発のシリーズを3回行うことから始まる。姿勢の切換えおよび試射の7分間の後、ファイナリストは各シリーズ150秒の伏射5発のシリーズを3回行う。次に姿勢の切換えおよび試射の9分間の後、各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは1発50秒の立射5発となり、残った選手で1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終弾を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは45発撃つことになる。

ファイナルは、まず膝射と伏射各10発の本射を、この順番に、22分間で撃つ。伏射の本射を撃ち終った選手は、残った時間の中で、立射への姿勢変換と弾数無制限の試射を撃つことができる。

選手は、姿勢変換の際の、本射から試射への切り替えに責任をもつ。服装の変更は認められないが、ジッパーやその他の締め具の調整は許容される。

選手は各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。

ファイナルは号令による1発50秒の立射が続けられ、1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終発を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは35発撃つことになる。

6.17.3 b 採点

ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。

本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。

6.17.3 c 用具準備時間
(20分前)

選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は射座内に置いておくことのできる1個の箱の中に入れておかなければならない。

ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合は~~シュートオフの成績~~下記i)に従って決められる。

本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。

選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は**その選手**の射座**内の後方**に置いておくことのできる1個の箱の中に入れておかなければならない。

6.17.3 d 準備および試射時間
膝射
(13分前)

射場長は開始時刻の13分前に選手を“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トウザ ライン)”という号令で射座に入らせる。この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを抜いたり、空撃ちはできない。

2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME. . . START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。

準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と号令する。

準備および試射時間
膝射姿勢
(~~13~~約10分前)

射場長は開始時刻の~~13~~約10分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE(アスリート トウザ ライン)”という号令で射座に入らせる。

~~この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを抜いたり、空撃ちはできない。~~

選手は一人ずつ入場し、紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。全ての紹介が終わった後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。ファイナリストは膝射の姿勢をとり据銃や照準練習を行うことができるが、セフティフラッグを抜いたり、空撃ちを行うことはできない。~~2~~分30秒後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME. . . START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。試射中は得点のアナウンスは行わない。

5分後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”と号令をかける。
試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。
射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
選手はファイナリストの紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずしておかなければならない。また、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けていなければならない。

準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と号令する。
5分後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”と号令をかける。
~~試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。~~
~~射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。~~
~~選手はファイナリストの紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずしておかなければならない。また、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けていなければならない。~~
選手は、標的がEST技術役員によって本射にセットされるまで、膝射の姿勢を維持しなければならない。射場役員は全ての標的が正しくセットされ、それがCROIに示されているかをチェックしなければならない。

6.17.3. e を削除

6.17.3.f 膝射
3×5発
制限時間:200秒
各シリーズ

紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかけ、60秒後、“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。ファイナリストは200秒で膝射の本射シリーズの5発を撃つ。200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。

6.17.3.fe 本射
膝射と伏射
~~3×5発~~
~~制限時間:200秒~~
~~各シリーズ~~

射場長は”FINALISTS HAVE TWENTY-TWO MINUTES TO FIRE TEN SHOTS IN EACH OF THE KNEELING AND PRONE POSITIONS AND PREPARE FOR THE STANDING POSITION (ファイナリスト ハブ トウエントゥー ミニッツ トゥー ファイア テン ショッツ イン イーチ オブ ザ ニーリング アンド プローン ポジション アンド プリペアー フォー ザ スタンディング ポジション)”と号令をかける。5秒後、射場長は”MATCH FIRING START (マッチ ファイアリング スタート)”と号令する。

200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP（ストップ）”と号令をかける。

“STOP（ストップ）”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、順位について付け加えのコメントをする。

アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD（フォーザネクストコンペティションシリーズロード）”と号令をかける。

5秒後、射場長は“START（スタート）”の号令をかける。

200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終わったら、射場長は“STOP... UNLOAD（ストップアンロード）”と号令をかける。

射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

第3シリーズを完了した選手は、ライフルを肩から外してもよいが、膝射の姿勢で待機しなければならない。そして姿勢切換えの号令がかかるまで、ライフルの部品を取り外したり調整したりしてはならない。

ファイナリストは膝射を10発撃ち、その後セフティフラッグを挿入し、伏射姿勢に切換え、弾数無制限の試射の後、伏射の本射を10発撃つ。各10発の本射の後、セフティフラッグを挿入し、立射姿勢に切換えなければならない。その後、22分間の本射時間の終わりの射場長の“STOP（ストップ）”の号令がかかるまで、残りの時間で弾数無制限の立射の試射を行うことができる。ファイナリストは、射場長の次の号令による、立射の本射に備えなければならない。姿勢の切換え中はセフティフラッグを挿入し、銃口は標的方向下向きになっていなければならない。

ファイナリストは本射から試射および適切な時に試射から本射に標的を切り替えることに責任をもたなければならない。選手は、姿勢の切換えに際して、FOP内で衣服を交換したり、射撃ジャケットまたは射撃ズボンを脱ぐことはできないが、必要に応じてジッパーやボタンを外すことはできる。射撃中および姿勢転換中におけるライフルの調整や装備の脱着は選手が行わなければならない。この事には、FOPの床に落とした用具（例えばセフティフラッグの回収）を拾い上げることも含まれる。選手がFOPにいるときに自力でこれらの事態を完了することができず、何らかの援助が必要となる場合には、2点の減点（グリーンカード）を科されることがある。

6.17.3 f 射場長の号令

開始から17分後、射場長は” F I V E M I N U T E S（ファイブ ミニッツ）”とアナウンスする。
21分30秒後、射場長は” T H I R T Y S E C O N D（サーティ セカンズ）”とアナウンスする。
22分後、射場長は” S T O P（ストップ）”と号令をかける。

6.17.3 g、h、i を削除

6.17.3 j 立射
2×5発
制限時間:250秒
各シリーズ
5×1発
制限時間:50秒
各1発

30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES. . . LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。

ファイナリストは250秒で立射の本射シリーズの5発を撃つ。

同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。

射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。

アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT. . . LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。

5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。

6.17.3 jg ~~本射~~
~~立射~~
~~2×5発~~ ~~シリーズ~~
~~制限時間:250秒~~
~~各シリーズ~~
~~5×1発~~
~~制限時間:50秒~~
~~各1発~~

30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES. . . LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。

~~ファイナリスト選手は250秒で立射の本射シリーズの5発を撃つ。~~

~~250秒後、射場長は”STOP (ストップ)”と号令する。~~

~~アナウンサーは、現在の順位や次のシリーズの終了時で2名の下位選手が脱落するという事実を含むその他の関連情報を短くコメントする。~~

~~同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。~~

~~射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。~~

1 発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確認し続けられるようにしなければならない。
50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP（ストップ）”と号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。
射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。

~~アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT. . . LOAD（フォーザネクストコンペティションショットロード）”と号令をかける。
5秒後、射場長は“START（スタート）”の号令をかける。
1発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確認し続けられるようにしなければならない。
50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP（ストップ）”と号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。
射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。~~

6.17.3 k エリミネーション

立射の第二シリーズが終了した後、下位のファイナリスト2名は脱落させられる（第四十発目 第八位と第七位）。以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。

第四十一発目の後・・・第六位

第四十二発目の後・・・第五位

第四十三発目の後・・・第四位

第四十四発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定）

第四十五発目の後・・・第二位と第一位

（銀、金メダリストの決定）

6.17.3 kh エリミネーション
単発シリーズ

立射の第二シリーズが終了した後、下位のファイナリスト2名は脱落させられる（~~第四十~~30発目 第八位と第七位）。アナウンサーは脱落した選手を発表し、現在の順位についてコメントする。

アナウンサーのコメントが終了するとすぐに、射場長は”FOR THE NEXT COMPETITION SHOT...LOAD（フォーザネクストコンペティション ショット...ロード）”と号令し、5秒後に”START（スタート）”と号令をかける。

残った6名のファイナリストは50秒以内に1発発射する。

射撃時間のカウントダウン情報は全ての選手が確認でき続けなければならない。

50秒後または全てのファイナリストが撃ち終わったら、射場長は”STOP（ストップ）”の号令をかける。

この手順と適切な号令が全てのファイナリストが1発を撃ち終えるまで続けられ、その後、その時点での最下位の選手が脱落する。アナウンサーは脱落した選手（第6位）を発表し、その他関連するコメントを行う。

残った5名のファイナリストは、号令に従って射撃を続け、以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。

~~第四十一~~31発目の後・・・第六位

~~第四十二~~32発目の後・・・第五位

~~第四十三~~33発目の後・・・第四位

~~第四十四~~34発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定）

~~第四十五~~35発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）

6.17.3 l → 6.17.3 i
6.17.3 m → 6.17.3 j
に変更

6.17.3 l 同点の順位決定

もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。
同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字と射座をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。もし第八位と第七位の選手が同点であったなら、最終5発シリーズの合計点の多い者。以下均衡が破れるまで5発シリーズを逆順にさかのぼるなど。

6.17.3 i 同点の順位決定

もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。
同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字と射座をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。~~アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。~~もし第八位と第七位立射の2回の5発シリーズを終了して2名の選手が同点であったなら、~~最終5発シリーズの合計点の多い者。~~以下均衡が破れるまで5発シリーズを逆順にさかのぼるなどその両名は脱落することになるが、その同点の順位は以下のカウントバックにより決定される。
1) 2回目の立射5発シリーズの得点
2) 1回目の立射5発シリーズの得点
3) 伏射シリーズの最終弾の得点、順次さかのぼる
もし3名以上が立射の2回の5発シリーズを終わって同点の場合は、シュートオフを行い脱落する2名の選手を決定する。

6.17.3 m ファイナルの完了

残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“STOP. . . . UNLOAD (ストップ. . . . アンロード)”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL (リザルツアーファイナル)”と宣言する。
担当ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.pに従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。

6.17.3 j ファイナルの完了

残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“STOP. . . . UNLOAD (ストップ. . . . アンロード)”と号令し、~~そして次に~~“RESULTS ARE FINAL (リザルツアーファイナル)”と宣言する。
担当ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.pqに従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。

6.17.3 o コーチング

コーチはファイナルの前と後に選手の用具等
を運ぶ手助けができるが、姿勢切り替え
の手助けをすることはできない。
言葉によらないコーチングは許される。姿
勢切り替えの時間に限り、選手がコーチに
歩み寄って（コーチが選手に近づくことは
できない）、言葉によるコーチングを受け
ることができる。

6.17.4 a ファイナルの様式

25 mラピッドファイアピストル男子の
ファイナルは4秒射の5発シリーズのヒッ
トオアミススコアによる8シリーズで構成
され、4シリーズ目から最下位のファイナ
リストの脱落が開始され、金および銀メダ
リストの決まる8シリーズまで続けられ
る。

6.17.3 n を削除

6.17.3 ok コーチング

コーチはファイナルの前と後に選手の用具
等運ぶ手助けができるが、~~姿勢切り替え
の手助けをすることはできない。~~
ファイナル中、コーチは、伏射スリングの
取り外し、射撃ジャケットの肩ストラップ
の調整など衣服の軽微な調整において選手
を支援することはできるが、選手にその他
の身体的支援をすることはできない。この
ときには選手との会話が許されるが、ここ
に記載されているコーチングや支援はすべ
てFOP後方のコーチテクニカルエリア内
でのみ行われなければならない。
言葉によらないコーチングは許される。
~~姿勢切り替えの時間に限り、選手がコー
チに歩み寄って（コーチが選手に近づくこ
とはできない）、言葉によるコーチングを受
けることができる。~~

ファイナルの様式

25 mラピッドファイアピストル男子の
ファイナルは4秒射の5発シリーズのヒッ
トオアミススコアによる8シリーズで構成
され、~~4-3~~シリーズ目終了から最下位の
ファイナリストの脱落が開始され、金およ
び銀メダリストの決まる8シリーズまで続
けられる。

6.17.4 b 標的

25mESTの5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに2名ずつファイナリストが割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置（射座）が設定される。各標的グループに割り当てられた2名のファイナリストは射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。

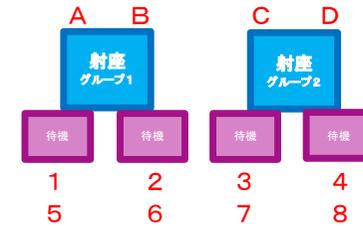
標的と射座

25mESTの5的グループ3-2つを使用しなければならない。射座はA-B/C-Dと表示される。

それぞれの5的グループに2-4名ずつファイナリストが割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置（射座）が設定される。

1～8までの、ファイナルスタート番号がレポータータイムに発表される。ファイナルスタート番号は本選順位に従って割り当てられる（本選1位がファイナルスタート番号1）。

下図に示すように、1、3、5、7番の選手は標的の左側のグループ（AとC）に割り当てられ、2、4、6、8番の選手は標的の右側のグループ（BとD）に割り当てられる。



号令により、各標的グループに割り当てられた2名のファイナリスト選手は射座に入る。その2名の選手は、撃つ順になったら、射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。

6.17.4.c を 装弾エリア
挿入

装弾エリアが、それぞれの標的グループごとに、射座の後方に設置される。射座割に従って、4名のファナリストがそれぞれのエリアに配置される。



6.17.4.c 採点

ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ポイント、各ミスは0ポイントとして数えられる。ヒットゾーンの大きさは2.5mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。ファイナルにおける得点の合計（合計ヒット数）により順位が決められる。同点の場合はシュートオフの成績によって順位が決定される。
本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は本射第一シリーズの成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こったシリーズの得点に科せられる。

減点

6.17.4.ed 採点

ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ポイント、各ミスは0ポイントとして数えられる。ヒットゾーンの大きさは2.5mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。ファイナルにおける得点の合計（合計ヒット数）により順位が決められる。**8位から5位までの同点の場合順位決定はシュートオフの成績ファイナルスタート番号によって順位が決定される。**
本射第一発目の前に起こった反則に対する減点は**本射第一シリーズの成績にファイナルにおける最初のヒットから科せられる。**その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こったシリーズの得点に科せられる。

減点

6.17.4.e を 弾速検査
挿入

本選終了後20分以内でファイナルのレポーター到着時刻前に、全ファイナリストは、それぞれの弾薬を持って、弾速検査所に出頭しなければならない（8.4.4.3参照）。

6.17.4.d 出頭時刻
30分前と20分前

選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の少なくとも20分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃(セフティフラッグが挿入されていない)も含まれる。

6.17.4.df 出頭時刻
30分前と20分前

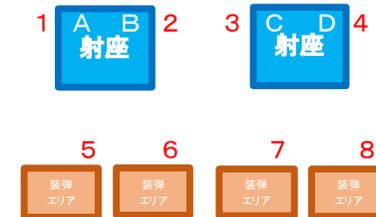
選手は開始時刻の30分前に用具と、競技用の服装および表彰式の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の少なくとも20分前には、~~ファイナルを行うに十分な~~封印された弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。

弾薬と弾倉は、射座に置かれる試射シリーズに使用される1個の弾倉および5発の弾薬を除き、装弾エリアに置いていなければならない。試射シリーズ終了後には、弾倉と残った弾薬は装弾エリアに戻さなければならない。ピストルは射座に置かななければならない。その他の用具については、選手の必要に応じて射座に置くことができる。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃(セフティフラッグが挿入されていない)も含まれる。

もしファイナル前の弾速検査に選手自身が現れなかった選手はファイナルに参加することは許されず、ファイナル成績表に「DNS」と記載され8位となる。

6.17.4 gを挿入 呼び出し
約11分前

選手は開始時刻の約11分前に一人ずつ紹介を受けながらFOPに入場するように呼び出され、“TAKE YOUR POSITIONS(テイクユア ポジションズ)”の号令がかかるまで、聴衆と対面するように立ち続ける。
下図に示すように、選手1、2、3、4が射座にいる時には、選手5、6、7、8は装弾エリアにいることになる。



6.17.4 e 呼び出し
準備時間と試射
10分前

射場長は開始時刻の10分前に“ATHELETES TO THE LINE(アスリート トウ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW(プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“END OF PREPARATION(エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。
試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD(フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。

6.17.4 eh 呼び出し
準備時間と試射と装
填
10分前

射場長は開始時刻の10分前に“~~ATHELETES TO THE LINE(アスリート トウ ザ ライン)~~”という号令をかける。1分10秒後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW(プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させをかける。
21分後、射場長は“END OF PREPARATION(エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。
試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD(フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手1と3の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5)”“READY(レディ)”をかける。
選手の苗字が呼ばれた”READY(レディ)”がかけられた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。

この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2参照)。7秒後、緑ランプが点灯する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。

技術役員が標的の準備ができたことを知らせたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。

この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、4秒射1シリーズが進行する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。

~~この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2参照)。~~

~~このシリーズが終了したら、選手2と4に対してこの手順を繰り返す。~~

~~7秒後、緑ランプが点灯する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。~~

~~技術役員が標的の準備ができたことを知らせたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。~~

~~この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、4秒射1シリーズが進行する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。~~

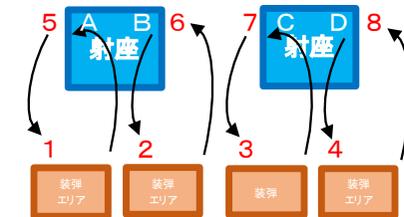
試射シリーズでは得点のアナウンスは行われ
ない。全ファイナリストの試射シリーズが完了
した後、選手は抜弾したピストルにセフティフ
ラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために
観客と向かい合わせになるように振り向かな
なければならない。射場役員は薬室が開放さ
れ、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認し
なければならない。

~~試射シリーズでは得点のアナウンスは行われ
ない。全ファイナリストの試射シリーズが完了
した後、選手は抜弾したピストルにセフティフ
ラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために
観客と向かい合わせになるように振り向かな
なければならない。射場役員は薬室が開放さ
れ、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認し
なければならない。~~

4名の選手の試射が終了したら、彼らは装弾
エリアに退き、2つの弾倉に弾を装填するこ
とができる。この後、更なる”LOAD”の号令はか
けられないが、ファイナル中は必要に応じて弾
倉に弾を装填することができる。

つづいて、射場長は選手5、6、7、8に対
して”TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユ
ア ポジションズ)”と号令をかける。彼らは前
方の射座に移動し、上記の手順を繰り返す。
20秒後、射場長は”PREPARATION BEG
INS NOW(プレパレーション ビギンズ ナ
ウ)”と号令をかける。

このとき、5的グループの右側の選手は準備
のためピストルを手を持つことはできるが、照
準練習、腕の上げ下げまたは空撃ちはできな
い。



6.17.4 g 号令と射撃の詳細手順
ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。
選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。
選手紹介から15秒後、射場長は“LOAD(ロード)”の号令をかける。“LOAD(ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2はファイナルでは適用されない)。本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD(ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。
“LOAD(ロード)”の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手には取ることができ、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。

6.17.4 fを 削除

6.17.4 gi 号令と射撃の詳細手順
0:00に本射開始
ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。~~それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。~~初めの3シリーズでは、ファイナリストは2人ずつで撃つことになる。最初の2名は射座の左側に立つことになる。選手1と3、2と4、5と7、6と8の順で撃つことになる。
第4シリーズから、残っているファイナリストは順に単独で撃つことになる。射撃は全てのシリーズにおいて左から右(1から8)の順に行われる。

自身のシリーズを撃ち終えた選手は速やかに装弾エリアに戻らなければならない。次のグループの選手は、呼び出されることなく、待機場所へ進む。選手は、脱落するかファイナルが終了するまで、ファイナル中はローテーションをしながら撃つことになる。選手が弾倉に装填したならば、同じ射座を使用する選手が装弾エリアに移動したら、すぐに待機場所に移動しなければならない。その後すぐに射場長は、次の選手に対し“READY(レディ)”の号令をかける。

~~選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。~~

左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。

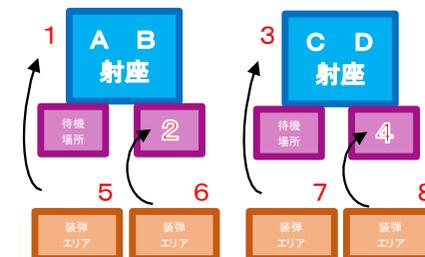
選手紹介から15秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD(ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2はファイナルでは適用されない)。本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。

“LOAD(ロード)”の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手に取りすることはできるが、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。

左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。

選手が射座につくために前に移動した際、他の選手たちは下図に示すような位置にいないなければならない。

各射座の左側(AとD)の選手—射座
各射座の右側(BとC)の選手—待機場所

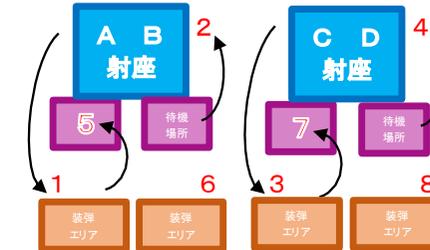


“LOAD(ロード)”の号令の1分後、射場長は“[選手1の苗字]”と最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間(標的の復旧時間)赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする(例:4ヒッツなど)。

~~“LOAD(ロード)”の号令の1分20秒後、射場長は“[選手1の苗字]、[選手3の苗字]—READY(レディ)”と最初の選手を呼び出す声をかける。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。~~
最初の選手の名前を呼んで1520秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。~~最初2人~~の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間(標的の復旧時間)赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする(例:
[選手1の苗字]—4ヒッツ、[選手3の苗字]—3ヒッツなど)。

最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。射場長は“[選手2の苗字]”と声をかける。15秒後、“ATTENTION(アテンション)”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、射場長が得点を発表する。他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。

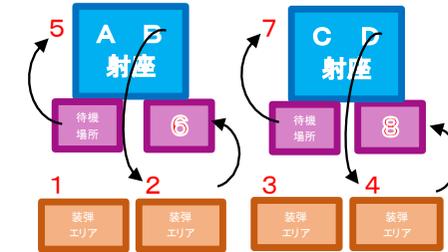
左側の選手が撃ち終わったら、その選手は装弾エリアまでさがり、右側の選手は待機場所から射座に向かう。



最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。20秒後、射場長は“[選手2の苗字]、[選手4の苗字]—READY(レディ)”と声をかける。45~20秒後、“ATTENTION(アテンション)”の号令がかけられ、そのシリーズ上記の手順がでシリーズが開始され進行する。各シリーズ後、射場長が得点を発表する。他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、図に示された手順にて撃ち射撃を続ける。

全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。

全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。



第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが43シリーズを撃ち終えるまで続ける。

6.17.4 h エリミネーション

全てのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(6位)。この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。
 5シリーズ後・・・5位
 6シリーズ後・・・4位
 7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定)
 8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)

6.17.4 h エリミネーション

全てのファイナリストが第43シリーズを撃ち終わった後、最下位2名の選手が脱落する(67位と8位)。この後、次のように各シリーズ終了後に一人ずつ選手が脱落していく。
 第4シリーズ後・・・6位
 第5シリーズ後・・・5位
 第6シリーズ後・・・4位
 第7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定)
 第8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)

第4シリーズ以降、選手はファイナル開始時の位置で、その時点の射撃順序に従って、単独での射撃を続ける。全てのシリーズにおける射撃順序は左から右(1から8)で、射座の変更は行われない。選手は待機場所で順番を待ち、射座の準備ができたらずに位置につかなければならない。

6.17.4 i 同点の順位決定

落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ(4秒射)を同点が解消されるまで行う。どのタイブレーキングシリーズも左側の選手から開始される。

タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに最初の同点の選手の名前“[該当選手の苗字]”を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。

アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。

6.17.4 ~~ik~~ 同点の順位決定

~~落すべき8位から5位の順位決定において、最下位の選手が同点であった場合、その順位決定はファイナルスタート番号によって行われる。4位以降の同点の選手は追加のタイブレーキングシュートオフシリーズ(4秒射)を同点により解消されるまで行う。どのタイブレーキングシリーズも左側の選手から開始される選手は、ファイナルスタート番号の小さい選手から順に、一人ずつ個別にシュートオフシリーズを射撃する。~~

~~タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに最初の同点の選手の名前“[該当選手の苗字]”を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。~~

~~アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。~~

6.17.4 j ファイナルの完了

2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“STOP . . . UNLOAD(ストップ . . . アンロード)”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL(リザルト アー ファイナル)”と宣言する。

ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.plに従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。

ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。

6.17.4 ~~jl~~ ファイナルの完了

2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“STOP . . . UNLOAD(ストップ . . . アンロード)”と号令し、そして“RESULTS ARE FINAL(リザルト アー ファイナル)”と宣言する。

ジュリーはメダリストをFOPに集合させ、アナウンサーは即座に、6.17.1.14.pqに従って、銅、銀、金メダリストをアナウンスする。

ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。

6.17.4 k 遅発
(LATE SHOTS)

選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5
的を撃ちきれなかった場合、オーバータイム
ショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減
点はそのシリーズのスコアに科せられる。そ
の遅発は“OT”と表示される。

6.17.4 l READYポジション
(8.7.2、8.7.3)

ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるま
たは十分に腕が下がってなかったと判断した
場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット
減点されなければならない(グリーンカード)。
ファイナルでは警告は与えられない。これが繰
り返された場合、選手は失格とされなければな
らない(レッドカード)。レディーポジション違反
の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を
科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、
選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表
示(旗をあげるなど)をしなければならない。

6.17.4 km ~~遅発~~
~~(LATE SHOTS)~~
時間遅れおよび不規
則弾

選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5
的を撃ちきれなかった場合、オーバータイム
ショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減
点はそのシリーズのスコア得点に科せられ
る。その遅発レイトショットは“OT”と表示され
る。
1つの標的に2発撃ち込んだ場合、標的上の
2発目はミスとされ、そのシリーズの得点から
1ヒットの減点が科せられる。

6.17.4 ln ~~READYレディーポジ~~
~~ション~~
(8.7.2、8.7.3)

ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるま
たは十分に腕が下がってなかったと判断した
場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット
減点されなければならない(グリーンカード)。
ファイナルでは警告は与えられない。これが繰
り返された場合、選手は失格とされなければな
らない(レッドカード)。レディーポジション違反
の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を
科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、
選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表
示(旗手をあげるなど)をしなければならない。

6.17.4 m 故障
(8.9)

試射中の故障については申告も再射もできない。ファイナルを通じて本射中には1回のみ故障(許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが)を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対して再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。

6.17.4 ~~mo~~ 故障
(~~8.9~~)

試射中の故障については申告も再射もできない。ファイナルを通じて本射中には1回のみ故障(許容できる故障であろうが許容できない故障であろうが)を申告できる。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを、他のファイナリストを待たせて、即座に再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために~~15~~20秒与えられる。許容できない故障の場合、そのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない。これ射場役員が許容できる故障か許容できない故障か判断した以外の故障に対して再射は許されず、許容できる故障の場合は表示されたヒット数が加算される。もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。

6.17.4 p を コーチング
挿入

コーチはファイナルの前と後に選手の用具等を運ぶ手助けができるが、弾薬の装填中の手助けをすることはできない。コーチが、ファイナル中、選手を助けて弾倉に装填したり、弾薬や装弾エリアにあるその他の用具に触れた場合、助けを受けた選手の最初の2ヒット得点が減点となる。言葉によらないコーチングは、選手が射座にいる時も許されるが、言葉によるコーチングは選手が装弾エリアで弾の装填を行っている時のみに許される。ただし、他の選手やコーチの邪魔をしてはならない。

6.17.4 qを 射撃練習
挿入

射座における照準練習、腕の上げ下げ、空撃ちは準備時間中のみ許される。
選手は射撃の順番を待つ間、装弾エリアに留まっている時にはダンベルや類似のおもりの有無に関わらず、腕の上げ下げや運動をすることが許される。

6.17.5 b 標的

25mESTの5的グループ2つを使用しなければならぬ。標的はA-B-R1-D-E-F-G-R2-I-Jと表示される。ファイナルでは、8名のファイナリストがA-B-D-E-F-G-I-Jにくじ引きによって割り当てられる。

25mESTの5的グループ2つを使用しなければならぬ。標的はA-B-R1-~~DC~~-~~ED~~-~~FE~~-~~GF~~-R2-~~IG~~-~~JH~~と表示される。ファイナルでは、8名のファイナリストがA-B-~~DC~~-~~ED~~-~~FE~~-~~GF~~-~~IG~~-~~JH~~にくじ引きによって割り当てられる。

6.17.5 e 呼び出し
準備時間と試射
12分前

射場長は開始時刻の12分前に“ATHELETES TO THE LINE(アスリート トウ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW(プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“END OF PREPARATION(エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。試射シリーズは通常の速射5発(8.7.6.4)で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD(フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができる。

呼び出し
準備時間と試射
~~12~~約10分前

射場長は開始時刻の~~12~~約10分前に“ATHLETES TO THE LINE(アスリート トウ ザ ライン)”という号令をかける。選手は一人ずつ入場し、紹介を受けながら自身の射座まで歩いていき、観客に向き合うように整列する。次にアナウンサーは射場長と担当ジュリーを紹介する。全ての紹介が終わった後、射場長は“TAKE YOUR POSITION S(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。1分10秒後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW(プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“END OF PREPARATION(エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。試射シリーズは通常の速射5発(8.7.6.4)で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“~~FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD~~(~~フォー ザ サイティング シリーズ~~ロード)”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができるファイナリストは1分間の時間が与えられ、2個の弾倉に装填をする(8.7.6.2 dはファイナルでは適用されない)。“LOAD(ロード)”の号令は試射シリーズが始まる前に1回だけかけられる。ファイナル全体を通して、選手は必要に応じて弾倉に装填することができる。

“LOAD(ロード)”の号令の60秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令をかける。試射シリーズでは得点のアナウンスは行われない。“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

“LOAD(ロード)”の号令の60秒1分後、射場長は“SIGHTING SERIES... READY(サイティング シリーズ... レディー)”と号令をかける。この号令後、選手は弾倉をピストルに挿入し、撃つ準備をする。“READY(レディー)”の号令の20秒後、射場長が“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、速射シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令をかける。試射シリーズでは得点のアナウンスは行われない。“STOP... UNLOAD(ストップ アンロード)”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。標的とスコアボードがリセットされ、本射にセットされなければならない。

6.17.5 fを
削除

6.17.5 g 号令と射撃の詳細手順
選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。
15秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“LOAD(ロード)”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2.dはファイナルでは適用されない)。
本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD(ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。
“LOAD(ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY(ファーストシリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。

6.17.5 gf 号令と射撃の詳細手順
0:00に本射開始
~~選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS(テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。~~
~~1530秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“LOAD(ロード)”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2.dはファイナルでは適用されない)。~~
~~本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD(ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。~~
~~“LOAD(ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY(ファーストシリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。~~

“READY(レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、速射シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に赤色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP(ストップ)”の号令をかける。“STOP(ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。アナウンス終了15秒後に、射場長は“NEXT SERIES. . . READY(ネクスト シリーズ. . . レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかける。
この手順をすべてのファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。
第4シリーズ終了後そして8位に同点がなければ、射場長は“STOP(ストップ)”の号令をかける。

“READY(レディー)”の号令の~~15~~20秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、速射シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に赤色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP(ストップ)”の号令をかける。“STOP(ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。アナウンス終了15秒後に、射場長は“NEXT SERIES. . . READY(ネクスト シリーズ. . . レディー)”と号令をかける。~~15~~20秒後、射場長は“ATTENTION(アテンション)”の号令をかける。
この手順をすべてのファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。
第4シリーズ終了後そして8位に同点がなければ、射場長は“STOP(ストップ)”の号令をかける。

6.17.5 h → 6.17.5 g
6.17.5 i → 6.17.5 h
6.17.5 j → 6.17.5 i
6.17.5 k → 6.17.5 j
6.17.5 l → 6.17.5 k
に繰り下げ

6.18.1.5 競技方式

10mミックス種目は2つのステージで行われる。

a) 本選

b) ファイナル(ブロンズメダルの決まるステージ1とゴールド/シルバーメダルの決まるステージ2から構成される)

6.18.1.7 b) メダルマッチにおいては、各チーム着席していなければならないコーチの一人が選手に近づき、会話することが許される。コーチはラウンドの完了後、アナウンスが行われている間に直ちに手をあげることにより「タイムアウト」を要求できる。「タイムアウト」は各メダルマッチで1回だけ要求することができる。コーチが射座内にいる選手に近づいて話すことができるのは、コーチが選手に近づき始めてから最大1分間となる。

6.18.1.7 c) 担当ジュリーは時間を管理し、1分の経過を「タイム」とアナウンスしなければならない。コーチはその後すぐに自分の席に戻らなければならない。一方のチームが「タイムアウト」要求した際、他方のチームのコーチも同時に自分の選手に近づき話すことができる。このことは他方のチームによる自身のタイムアウトの請求には影響しない。

6.18.1.8 銃器故障

a) 本選における故障は6.13に従って処理される。

b) ファイナルのメダルマッチにおける故障は6.17.1.6に従って処理される(メダルマッチにおいて各チーム1回の許容できる故障が許される)。

6.18.2.3 a) 各本選射群において、射場長は公表された開始時刻の20分前に選手を射座に入れる。

競技方式

10mミックス種目は2つのステージで行われる。

a) 本選

b) ファイナル(~~ブロンズメダルの決まるステージ1とゴールド/シルバーメダルの決まるステージ2から構成される~~)

~~メダルマッチファイナル~~においては、各チーム着席していなければならないコーチの一人が選手に近づき、会話することが許される。コーチ ~~または選手~~はラウンドの完了後、アナウンスが行われている間に直ちに手をあげることにより「タイムアウト」を要求できる。「タイムアウト」は ~~各メダルマッチでファイナル~~において1回だけ要求することができる。コーチが射座内にいる選手に近づいて話すことができるのは、コーチが選手に近づき始めてから最大~~1分~~**1分30秒**間となる。

担当ジュリーは時間を管理し、~~1分30秒~~の経過を「タイム」とアナウンスしなければならない。コーチはその後すぐに自分の席に戻らなければならない。一方のチームが「タイムアウト」要求した際、~~他方~~のチームのコーチも同時に自分の選手に近づき話すことができる。このことは~~他方~~のチームによる自身のタイムアウトの請求には影響しない。

銃器故障

a) 本選における故障は6.13に従って処理される。

b) ファイナルの~~メダルマッチ~~における故障は6.17.1.6に従って処理される(~~メダルマッチ~~において各チーム1回の許容できる故障が許される)。

各本選射群において、射場長は公表された開始時刻の~~20~~**25**分前に選手を射座に入れる。

6.18.2.4 **準備および試射時間**
選手は本選開始前に10分間の試射弾数無制限の準備および試射時間が許される。

6.18.2.4 e 準備および試射時間が9分30秒間経過したら、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と告知しなければならない。

6.18.2.5 a 本選では、チームメンバーは30分の制限時間でそれぞれ30発の本射弾(チームでは合計60発)を撃つ。各選手はチームパートナーから独立して射撃を行う。

6.18.3 **ファイナル**
ファイナルは銅メダルの決まるステージ1とそれに続く金/銀メダルの決まるステージ2で構成される。

6.18.3.2 **手順**
a) ファイナルでは新たに割り当てられたBib(ゼッケン)を着用する。
b) ファイナルステージ1の選手およびコーチは、開始時刻の少なくとも15分前には、指定された射座に用具を置きに行くことを許可されなければならない。その後、射場から去り、呼び込まれるまで待たなければならない。
c) FOPにバッグや銃ケースを残しておくことはできない。

準備および試射時間
選手は本選開始前に~~10~~**15**分間の試射弾数無制限の準備および試射時間が許される。

準備および試射時間が~~9~~**14**分30秒間経過したら、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”と告知しなければならない。

本選では、チームメンバーは~~30~~**40**分の制限時間でそれぞれ30発の本射弾(チームでは合計60発)を撃つ。各選手はチームパートナーから独立して射撃を行う。

6.18.2.7 d と e を削除

ファイナル
ファイナルでは、~~まず銅メダルの決まるステージ1とそれに続く金/銀メダルの決まるステージ2で構成される、~~チームメンバー全員で号令に従って5発を250秒以内に撃つシリーズを3回行い、その後、号令に従って1発を50秒で撃つことを3回行う。この時点で最下位のチームが4位として、ファイナルから脱落する。残ったチームはつづいて、号令に従った1発50秒の射撃を3回行い、その時点で最下位のチームが銅メダルを獲得する。つづく3発の射撃により、金メダルと銀メダルを獲得するチームが決まる。金メダルと銀メダルを獲得したチームのメンバーはそれぞれ24発ずつ撃つことになる。

手順
~~a) ファイナルでは新たに割り当てられたBib(ゼッケン)を着用する。~~
~~ba) ファイナルステージ1の選手およびコーチは、開始時刻の少なくとも15分前には、指定された射座に用具を置きに行くことを許可されなければならない。その後、射場から去り、呼び込まれるまで待たなければならない。~~
~~eb) FOPにバッグや銃ケースを残しておくことはできない。~~

6.18.3.4 出頭と開始時刻

- a) ファイナルの開始時刻は射場長がファイナルステージ1の本射1発目の号令をかけ始める時刻である。
- b) ファイナルに進出した8名すべての選手は、ファイナル射場の出頭場所に、必要なすべての用具を持って、ファイナルステージ1の開始時刻の少なくとも30分前には出頭しなければならない。チームメンバーの一人でも出頭時刻に遅れた場合、本射の第1シリーズから2ポイントが減点される。各チーム1名のコーチが付き添うことができる。
- c) 開始時刻の20分前よりも遅れてきた選手またはチームはファイナルに参加することはできず、ファイナルステージ1では4位、ファイナルステージ2では2位となる。
- d) ファイナル後すぐに表彰式が行われる場合、すべての選手は表彰式にふさわしいナショナルチームのユニフォームも持って出頭しなければならない。ジュリーは各選手の出頭後、できるだけ素早く出頭時間内に用具のチェックを完了しなければならない。
- e) ファイナルステージ1の選手またはコーチは開始時刻の少なくとも15分前には指定された射座に用具を置くことを許可されなければならない。その後、射場を離れ、射座への呼び込みがあるまで待機してなければならない。
- f) ファイナルの両ステージのチームおよびコーチは各ファイナルステージ1の開始時刻の10分前に、射座への呼び込みに備えて、射座順に集合させられなければならない。

6.18.3.5 射座割

- a) ファイナルステージ1では本選3位のチームが射座BとCに本選4位のチームが射座FとGに割り当てられるべきである。
- b) ファイナルステージ2では本選1位のチームが射座BとCに本選2位のチームが射座FとGに割り当てられるべきである。
- c) チームメンバーはファイナルにおいて射座を交換できる。交換の希望がある場合、本選成績の速報の抗議締切時刻までにコーチがRTSジュリーにどの選手が左側で撃ち、どの選手が右側で撃つのかを申告しなければならない。

出頭と開始時刻

- a) ファイナルの開始時刻は射場長がファイナル~~ステージ1~~の本射1発目の号令をかけ始める時刻である。
- b) ファイナルに進出した8名すべての選手は、ファイナル射場の出頭場所に、必要なすべての用具を持って、ファイナル~~ステージ1~~の開始時刻の少なくとも30分前には出頭しなければならない。チームメンバーの一人でも出頭時刻に遅れた場合、本射の第1シリーズから2ポイントが減点される。各チーム1名のコーチが付き添うことができる。
- c) 開始時刻の20分前よりも遅れてきた選手またはチームはファイナルに参加することはできず、ファイナル~~ステージ1~~では4位、~~ファイナルステージ2~~では2位となる。
- d) ファイナル後すぐに表彰式が行われる場合、すべての選手は表彰式にふさわしいナショナルチームのユニフォームも持って出頭しなければならない。ジュリーは各選手の出頭後、できるだけ素早く出頭時間内に用具のチェックを完了しなければならない。
- e) ファイナル~~ステージ1~~の選手またはコーチは開始時刻の少なくとも15分前には指定された射座に用具を置くことを許可されなければならない。その後、射場を離れ、射座への呼び込みがあるまで待機してなければならない。
- f) ファイナルの~~両ステージ~~のチームおよびコーチは各ファイナル~~ステージ1~~の開始時刻の~~10~~8分前に、射座への呼び込みに備えて、射座順に集合させられなければならない。
- g) 表彰式がファイナルのあとに予定されているならば、全ての選手は表彰式にふさわしいチームユニフォームも持って集合しなければならない。

射座割

- a) ファイナル~~ステージ1~~では、~~本選3位のチームが~~ランダムに射座A-B/~~とC-D/E-F/G-Hに本選4位のチームが射座FとGに~~割り当てられるべきである。
- ~~b) ファイナルステージ2では本選1位のチームが射座BとCに本選2位のチームが射座FとGに割り当てられるべきである。~~
- eb) チームメンバーはファイナルにおいて射座を交換できる。交換の希望がある場合、本選成績の速報の抗議締切時刻までにコーチがRTSジュリーにどの選手が左側で撃ち、どの選手が右側で撃つのかを申告しなければならない。

6.18.3.6 得点

- a) ファイナル(ライフルおよびピストルともに)におけるすべての発射弾の得点は小数値の採点とする。
- b) 各ラウンドでチーム合計点の高いチームが2ポイントを得る。
- c) 同点の場合は各チームが1ポイントずつを得る。
- d) 先に16ポイント以上を獲得したチームが勝者となる。
- e) 両チームが同時に16点に達した場合、同点を解消するために追加のラウンドが行われる。
- f) 同点が解消されるまで追加のラウンドは継続される。

6.18.3.8 入場

ファイナルの両ステージの選手は1度に入場する。各チームが入場するのに合わせてアナウンサーは観客にチームの紹介をする。選手は指示された射座で観客に向かい、CROと担当ジュリーの紹介を含めて、全員の紹介が終わるまで立っていなければならない。ファイナルステージ2のチームは待機場所まで戻る。

得点

- a) ファイナル(ライフルおよびピストルともに)におけるすべての発射弾の得点は小数値の採点とする。
ファイナルは、まず、5発の本射を250秒以内で撃つシリーズを3回(5+5+5発)行う。その後、1発50秒以内で撃つ射撃を9回行う。18発目以降はその時点での最下位のチームの脱落が始まり、金メダルと銀メダルが決まるまで、3発ごとに脱落が行われる。ファイナルは合計で24発撃つことになる。
ファイナルは小数点表示の採点が行われる。ファイナルの得点により最終順位が決定し、同点の場合はシュートオフにより順位を決定する。
本射第1発目前の違反による減点は、本射第1発目に科せられる。その他の違反に対する減点は違反の生じた弾の得点に科せられる。
- ~~b) 各ラウンドでチーム合計点の高いチームが2ポイントを得る。~~
- ~~c) 同点の場合は各チームが1ポイントずつを得る。~~
- ~~d) 先に16ポイント以上を獲得したチームが勝者となる。~~
- ~~e) 両チームが同時に16点に達した場合、同点を解消するために追加のラウンドが行われる。~~
- ~~f) 同点が解消されるまで、追加のラウンドは継続され射撃(シュートオフ)が行われる。~~

入場

開始約8分前にファイナルの両ステージの選手に出るチームは1度に入場する。各チームが入場するのに合わせてアナウンサーは観客にチームの紹介をする。選手は指示された射座で観客に向かい、~~CRO~~射場長と担当ジュリーの紹介を含めて、全員の紹介が終わるまで立っていなければならない。
~~ファイナルステージ2のチームは待機場所まで戻る。~~

6.18.3.9 **準備および試射時間**
1分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME. . . START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイトイング タイム. . . スタート)”の号令をかける。4分30秒後、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”のアナウンスをする。5分後、射場長は“STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)”の号令をかける。

6.18.4 b “FOR THE FIRST COMPETITION SHOT LOAD(フォー ザ ファースト コンペティション シット ロード)”、5秒後、“STRAT(スタート)”

6.18.4 c 各チームメンバーは、50秒以内に、1発射撃する。

6.18.4 f STOP(ストップ)”の号令の直後に、各ラウンドの合計得点が高いチームが、獲得ポイントとともにアナウンスされる。

6.18.4 h この手順をファイナルの各ステージが決するまで繰り返す。

6.18.4.1 **ファイナルステージ1の完了**

- a) 銅メダルが決まったらすぐに、射場長は“STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)”の号令をかけ、同点や抗議がなければ、“RESULTS ARE FINAL(リザルツ アー ファイナル)”と宣言する。アナウンサーは銅メダル獲得チームをアナウンスする。
- b) 射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

準備および試射時間

~~4分~~ライフルの場合は30秒後、ピストルの場合は10秒後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME. . . START(ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイトイング タイム. . . スタート)”の号令をかける。4分30秒後、射場長は“30 SECONDS(サーティ セカンズ)”のアナウンスをする。5分後、射場長は“STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)”の号令をかける。

“FOR THE FIRST COMPETITION ~~SHOT~~SERIES LOAD(フォー ザ ファースト コンペティション シット ロード)”、5秒後、“STRAT(スタート)”

各チームメンバーは、~~50~~250秒以内に、~~1~~発射撃する5発のシリーズを撃つ。

STOP(ストップ)”の号令の直後に、各ラウンドの合計得点在最も高いチームが、~~獲得ポイントとともに~~アナウンスされる。

この5発シリーズの手順を~~ファイナルの各ステージが決するまで~~さらに2回繰り返す。その後、号令による1発50秒の射撃を3回行い18発目のあと、4位が決定する。残った3チームは、号令に従って、さらに3発撃ち、銅メダル獲得チームを決める。さらに残った2チームは3発の射撃をくり返し、金メダルと銀メダルの獲得チームを決める。

ファイナルステージ1の完了銅メダルチーム

- a) ~~銅メダルが決まったらすぐに~~、射場長は“~~STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)~~”の号令をかけ、同点や抗議がなければ、“~~RESULTS ARE FINAL(リザルツ アー ファイナル)~~”と宣言する。アナウンサーは銅メダル獲得チームをアナウンスする。
- b) 射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

- 6.18.4.3 **ファイナルステージ2の完了**
- a) 金／銀メダルが決まったらすぐに、射場長は“STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)”の号令をかけ、“RESULTS ARE FINAL(リザルト アー ファイナル)”と宣言する。アナウンサーは金メダル／銀メダル獲得チームをアナウンスする。
 - b) 射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラグが挿入されていることを確認しなければならない。
 - c) 個人戦のファイナル同様、金メダリストと銀メダリストは銅メダリストと共にFOPに集まらなければならず、公式写真やアナウンスのために、 Juryによって並ばせられる。選手は、写真のために、自身のライフル／ピストルを手に取りすることが許される。そのため、銅メダリストは、遅延なく、待機場所にある自身の銃を取りに行き、戻ってこなくてはならない。

- 6.18.4.4 **ファイナルの演出および音楽**
- a) 本選ステージにおいては音楽をかけなければならない。
 - b) メダルマッチにおいては音楽をかけなければならない。
 - c) TDは音楽プログラムを承認しなければならない。メダルマッチにおける熱烈な観衆の応援は奨励され、推奨される。

6.21 書類様式

- 6.22.2.2 競技会ではライフル、ピストル、ショットガンおよびランニングターゲット選手は各国、各国オリンピック委員会、各国競技団体の色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着るべきである。競技中に着用する適切な服装には、各国競技団体や各国オリンピック委員会が支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。

6.18.4.2 を削除

- 6.18.4.32 **ファイナルステージ2の完了**
- a) 金／銀メダルが決まったらすぐに、射場長は“STOP. . . UNLOAD(ストップ. . . アンロード)”の号令をかけ、“RESULTS ARE FINAL(リザルト アー ファイナル)”と宣言する。アナウンサーは金メダル／銀メダル獲得チームをアナウンスする。
 - b) 射場役員はライフル／ピストルのアクションが開けられ、セフティフラグが挿入されていることを確認しなければならない。
 - c) 個人戦のファイナル同様、金メダリストと銀メダリストは銅メダリストと共にFOPに集まらなければならず、公式写真やアナウンスのために、 Juryによって並ばせられる。選手は、写真のために、自身のライフル／ピストルを手に取りすることが許される。~~そのため、銅メダリストは、遅延なく、待機場所にある自身の銃を取りに行き、戻ってこなくてはならない。~~

- 6.18.4.43 **ファイナルの演出および音楽**
- a) 本選ステージにおいては音楽をかけなければならない。
 - b) ~~メダルマッチファイナル~~においては音楽をかけなければならない。
 - c) TDは音楽プログラムを承認しなければならない。~~メダルマッチファイナル~~における熱烈な観衆の応援は奨励され、推奨される。

6.18.4.5 → 6.18.4.4 に繰り上げ

6.219 書類様式

6.22 は 6.20 に変更

- 6.220.2.2 競技会ではライフル、ピストル、ショットガンおよび~~ランニング~~ターゲット選手は各国、各国オリンピック委員会、各国競技団体の色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着るべきである。競技中に着用する適切な服装には、各国競技団体や各国オリンピック委員会が支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。

6.22.2.6 すべてのピストル種目の練習ならびに競技中は、女性はドレス、スカート、キュロット、半ズボンまたはズボンならびにブラウスまたはトップス(上半身の前後と両肩を覆う上着)の着用を求められる。男性は長ズボンまたは半ズボンならびに長袖または半袖のシャツの着用を求められる。選手はどのようなタイプの競技力向上衣服を着用することは許されない。すべての選手の服装はISSFドレスコード(6.7.5および6.22)が守られていなければならない。

6.22.3.1 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、ジーンズまたはスポーツに適さない色の似たようなズボン、迷彩柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる半ズボン(6.22.2.8参照)、ほつれた切り口の半ズボン、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージ(宣伝の禁止:6.12.1参照)の書かれたシャツやズボンが含まれる。スポーツに適した色とは各国のユニフォームの色のことである。ナショナルカラーを身につけない場合、避けるべきスポーツに適さない色とは、迷彩柄、格子柄、カーキ色、オリーブ色、褐色である。

6.22.4.5 競技役員およびコーチは、6.22.3に記述されている禁止された服装を着用することはできない。

6.23 索引

すべてのピストル種目の練習ならびに競技中は、女性はドレス、スカート、キュロット、半ズボンまたはズボンならびにブラウスまたはトップス(上半身の前後と両肩を覆う上着)の着用を求められる。男性は長ズボンまたは半ズボンならびに長袖または半袖のシャツの着用を求められる。選手はどのようなタイプの競技力向上衣服を着用することは許されない。すべての選手の服装はISSFドレスコード(6.7.5および6.220)が守られていなければならない。

6.220.3.1 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、ジーンズまたはスポーツに適さない色の似たようなズボン、迷彩柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる半ズボン(6.220.2.8参照)、ほつれた切り口の半ズボン、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージ(宣伝の禁止:6.12.1参照)の書かれたシャツやズボンが含まれる。スポーツに適した色とは各国のユニフォームの色のことである。ナショナルカラーを身につけない場合、**避けるべき身に着けてはいけない**スポーツに適さない色とは、迷彩柄、格子柄、カーキ色、オリーブ色、褐色である。

6.220.4.5 競技役員およびコーチは、6.220.3に記述されている禁止された服装を着用することはできない。

6.2321 索引

ライブエイミング装置 6.7.4.5

「予備銃一故障」と「ライフル種目および10m、50mピストル種目のルール」の間に挿入

ファイナルスタート番号 6.7.7.2

「ファイナルー小数採点」と「ファイナルーすべてのファイナル標的の故障」の間に挿入

VAR 6.8 d

「UNLOAD/STOP後の発射」と「厚さ測定装置」の間に挿入

50m/300mの予選における団体得点	6.6.6.1.e/6.6.6.1.f	6.6.6.1 eg /6.6.6.1 f
START前の発射	6.11.1.1 k	6.11.1.1 kh
安全に関してのジュリーおよび射場役員による射撃中止	6.2.1.5	6.2.1.5 66
屋内射場での照度測定	6.4.14.2/6.4.14.3	6.4.14.2 21 /6.4.14.3
空気/CO2シリンダー－選手の実責任－有効期間	6.7.6.2.g/6.2.4.2	6.7.6.2.g gh /6.2.4.2
コントロールシートの外の弾痕	6.3.5.5	6.3.5.5 54
最大参加数	6.6.1.4	6.6.1.4/6.6.1.5
式典－選手の出席	6.22.2.4	6.22.2.4 20
射座割－射場の制約	6.6.6 b	6.6.6 bc
射座割－団体種目－2射群以上	6.6.6 g	6.6.6 gh
射座割－同条件	6.6.6 c	6.6.6 ed
テクニカルデレゲート: 世界記録の報告	6.14.9.5	6.14.9.5 54
ドレスコード	6.7.5/6.22	6.7.5/6.22 20
ドレスコード－禁止アイテム	6.22.3	6.22.3 20
ファイナル－START前またはSTOP後の発射－10m/25m/50m	6.17.1.14 h/6.17.1.14 j	6.17.1.14 h/6.17.1.14 ji
ファイナル－エクストラショットの発射	6.17.1.14 k	6.17.1.14 kl
ファイナル－コーチング	6.17.1.14 n	6.17.1.14 no
ファイナル－試射の号令－25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4 e	6.17.4 eh
ファイナル－銃器の故障－25mRFP(ルール8.9)	6.17.4 m	6.17.4 mo
ファイナル－銃器の故障－25mピストル女子(ルール8.9.1)	6.17.5 l	6.17.5 lk
ファイナル－準備時間－25m種目	6.17.4 e/6.17.5 e	6.17.4 eh /6.17.5 e
ファイナル－セーフティフラッグ	6.17.1.13 m/6.2.2.2 a	6.17.1.13 14 md /6.2.2.2 a
ファイナル－同点－10m	6.17.2 j	6.17.2 jh
ファイナル－同点－25mピストル女子	6.17.5 i	6.17.5 ih
ファイナル－同点－25mラピッドファイアピストル男子	6.17.4 i	6.17.4 ik
ファイナル－同点－50mライフル三姿勢	6.17.3 l	6.17.3 li
ファイナル－ルールと手順	6.17.1.13	6.17.1.13 14
迷彩生地	6.22.3.1	6.22.3.1 20

7. ライフルルール

旧

7.4.1.4 **ピストルグリップ** 右手のグリップの部分はスリングや左腕にたくす様な構造であってはならない。

7.4.1.6 **サイト**
f) エアライフルおよびスタンダードライフルにおいて、フロントサイトの筒は、リアサイトを通して見た時に円形でなければならない。水平をみるために使われる突出した形状または追加物があってはならない。フロントサイトの内部にある水平および／または垂直をみるための物は許される。

7.4.1.7 a) 全ての構成部品はライフルの機関部または銃床の中にしっかりと内装されていること。従って電池やコードが外側から見えてはならない。

新

ピストルグリップ 右手のグリップの部分はスリングや左腕に~~たくす様な構造であっては~~当たらないように適合または調節しなければならない。

サイト ~~a)~~ フロントまたはリアサイトに**明るいレンズまたは色**
~~f) e)~~ エアライフルおよびスタンダードライフルにおいて、フロントサイトの筒は、リアサイトを通して見た時に円形でなければならない。水平をみるために使われる突出した形状または追加物があってはならない。フロントサイトの内部にある水平および／または垂直をみるための物は許される。

全ての構成部品はライフルの機関部または銃床**の中にしっかりと**内装されていること。従って電池やコードが外側から見えてはならない。

7.4.2.1 c バットプレート：バットストックの端に取り付けられる可動式部分で、通常、射撃姿勢をとった時、選手の肩に接する。全幅は30mmを超えてはならない。バットプレートは上下に動かすことができ、バットストックの中心線から左右にオフセットおよび／または垂直軸および／または水平軸に対して回転することができるが、どの部分もバットストックの中心線から30mmを超えて左右に突出してはならない。複数部品から成るバットプレートを使用する場合、それぞれの部品を右または左に回転させることはできるが、全ての部品が全幅30mm以内になければならない。カーブの深さは、肩が接している部分の最も低い部分を測って20mmを超えてはならない(7.4.4.2.G)。

内側の長さが153mm×30mmのテンプレートはバットプレートの全幅を調べるのに使うことができる。バットプレートは、このテンプレートの内側にはまり、バットストックの中心線から30mmを超える部分がなければ使用できる。テンプレートの内側の縁はバットストックの中心線の基準線として使用されるべきである。

バットプレート：バットストックの端に取り付けられる可動式部分で、通常、射撃姿勢をとった時、選手の肩に接する。全幅は30mmを超えてはならない。バットプレートは上下に動かすことができ、バットストックの中心線から左右にオフセットおよび／または垂直軸および／または水平軸に対して回転することができるが、どの部分もバットストックの中心線から30mmを超えて左右に突出してはならない。複数部品から成るバットプレートを使用する場合、それぞれの部品を右または左に回転させることはできるが、全ての部品が全幅30mm以内になければならない。カーブの深さは、肩が接している部分の最も低い部分を測って20mmを超えてはならない(7.4.4.2-~~G~~g)。

内側の長さが153mm×30mmのテンプレートはバットプレートの全幅を調べるのに使うことができる。バットプレートは、このテンプレートの内側にはまり、バットストックの中心線から30mmを超える部分がなければ使用できる。テンプレートの内側の縁はバットストックの中心線の基準線として使用されるべきである。

7.4.2.1.f 「解剖学的形状」とは、「特定の選手の手フィットするよう
とに、メーカーが供給するオリジナルのグリップに素材を追加また
7.4.2.1.g は削除すること」と解釈できる。グリップは下図のように滑らかな
の間にであるべきであり、個々の指や親指の形状に合わせて成形される
挿入べきではない。3Dプリンターで製造されたものや格子構造のもの
は、選手の手個別にフィットするように成形されていない限り許される。

7.4.2.2 a 銃身ウエイトは銃身軸を中心とした半径30mmの円内に収まるもののみ許される。
銃身ウエイトを銃身に沿って動かすことはできる。

7.4.2.2 c 銃身ウエイト以外のウエイトはライフルのどの部分にも装着ができるが、次の図で示す範囲内に限られる。フォアエンドの下側に取り付けられるウエイトについては、水平方向（側方）には、チークピースの最大拡張幅（J1）を超えて取り付けることはできない。バットストックに取り付けられるウエイトは、バットプレート deepest part を通る垂直線より後部に突き出して配置することはできない。

銃身ウエイトは銃身軸を中心とした半径30mmの円内に収まるもののみ許される。
銃身ウエイトを銃身に沿って動かすことはできる。

フロントサイトの下部に取付けられたウエイトは銃身ウエイトとはみなされないが、装着したときのライフルの総重量が許容最大値を超えてはならない。これは、Scattなどのデバイスを取り付けるために銃身下部に固定された固定具やマウントアダプターにも適用される。ファイナルで取り付けられたデバイス本体は、総重量には含まれない。

（固定具を取り付けなければならない範囲は、今後のISSF出版物で指定される予定。）

銃身ウエイト以外のウエイトはライフルのどの部分にも装着ができるが、次の図またはa)の上にある図で示す範囲内に限られる。フォアエンドの下側に取り付けられるウエイトについては、水平方向（側方）には、チークピースの最大拡張幅（J1）を超えて取り付けることはできない。バットストックに取り付けられるウエイトは、バットプレート deepest part を通る垂直線より後部に突き出して配置することはできない。

7.4.2.2 d ウエイトはライフルから不意に外れたり位置を変えたりしないように、半永久的な方法でしっかりと取り付けられなければならない。ウエイトを取り付けるのに見える形での粘着テープの使用は禁止される。

選手は、放送や写真を通じてオリンピック種目の紹介となる事をふまえ、自身と使用している用具のイメージに気を使うこと。従って、ライフルとその付属品が粘着テープや結束バンドのような間に合わせの方法で取り付けられているように見られないようにすべきである。自動車のホイールバランス用の鉛のウエイトの大きな塊は不体裁でふさわしくないので隠すようにするか使用を避けるべきである。次の図に示す限られた範囲にしっかりと取り付けられた市販品の金属ウエイトは容認できるものである。

7.4.3. b すべての姿勢で同一のライフルを改変なしで使用しなければならない。バットプレートおよびハンドストップの調節またはフロントインサートの変更またはリアサイトまたはアイピースの調節は許される。競技中のチークピースの取り外しは、銃身クリーニングおよびボルト交換のために、ジュリーの監督下、行うことは許されるが、再装着する際にその位置を変えることはできない。クイックファスナー（調整を容易にするための蝶ネジ等）の使用は許されない。

ウエイトはライフルから不意に外れたり位置を変えたりしないように、半永久的な方法でしっかりと取り付けられなければならない。ウエイトを取り付けるのに見える形での粘着テープの使用は禁止される。次の図に示す限られた範囲にしっかりと取り付けられた市販品の金属ウエイトは容認できるものである。

選手は、放送や写真を通じてオリンピック種目の紹介となる事をふまえ、自身と使用している用具のイメージに気を使うこと。従って、ライフルとその付属品が粘着テープや結束バンドのような間に合わせの方法で取り付けられているように見られないようにすべきである。自動車のホイールバランス用の鉛のウエイトは許されるが、その大きな塊は不体裁でふさわしくなく見苦しいので可能であれば隠すようにするか使用を避けるべきである。次の図に示す限られた範囲にしっかりと取り付けられた市販品の金属ウエイトは容認できるものである。

<図>

すべての姿勢で同一のライフルを改変なしで使用しなければならない。バットプレートおよびハンドストップの調節またはフロントインサートの変更またはリアサイトまたはアイピースの調節は許される。競技中のチークピースの取り外しは、銃身クリーニングおよびボルト交換のために、ジュリーの監督下、行うことは許されるが、再装着する際にその位置を変えることはできない。クイックリリースファスナー（調整を容易にするための蝶ネジ等）の使用は許されず、本射中はライフルから取り外していなければならない。

7.4.4.1 ライフル規格図

7.4.5 d ウェイトはバットストックにしっかりと装着されていなければならず、テープで貼り付けることはできない。

7.4.5.2 パームレスト

パームレストとはフォアエンドの下部に装着し前方の手でライフルを保持することを補助するための取り外しのできる用具を指す。整形外科的形態（指または親指状の溝やくぼみ）は許される。このような装着物は銃身軸線下200mmを超えてはならない。パームレストは、エアライフルにおいては、どのような状況においても使用できない。パームレストが使用できるのは、50mライフルの立射姿勢においてのみである。銃身軸線下140mm以内で使用される直線的で平滑な表面を持つフォアエンドの拡張物はパームレストではない。

7.4.6 弾薬

ライフル	口径	備考
50m	5.6m m (.22 口径)	リムファイアロングライフル。鉛または類似の軟らかい材料で作られた弾頭のみが使用できる。

ライフル規格図(エアライフルとスタンダードライフル)

ウェイトはバットストックにしっかりと装着されていなければならず、見える形での粘着テープまたはその他のまにあわせの方法で貼取り付けることはできない。

7.4.5 f フォアエンドより前方の銃身に、延長チューブ、付属品およびScattまたはその他の装置の取付具やフロントサイトの昇降具の継手を取り付けることはできるが、ライフルの最大許容重量内ではなければならない。ファイナルで取り付けられる装置によって、ライフルの最大許容重量を超えることになる場合には、その超過は許容される。

7.4.5 f → g に変更

7.4.5.2 パームレスト

パームレストとはフォアエンドの下部に装着し前方の手でライフルを保持することを補助するための取り外しのできる用具を指す。整形外科的形態（指または親指状の溝やくぼみ）は許される。このような装着物は銃身軸線下200mmを超えてはならない。パームレストは、エアライフルにおいては、どのような状況においても使用できない。パームレストが使用できるのは、50mライフルの立射姿勢においてのみである。
注) 銃身軸線下140mm以内で使用される直線的で平滑な表面を持つフォアエンドの拡張物はパームレストではない。

ライフル	口径	備考
10m	4.5m m (.17 7口径)	形状は問わないが鉛または類似の軟らかい材料で作られた発射体を使用できる。

10m	4.5m m (.177口径)	形状は問わないが鉛または類似の軟らかい材料で作られた発射体を使用できる。
300m	最大8m m	選手や射場勤務員に危害を及ぼすことなく発射できるものであればどのような弾薬も

50m	5.6m m (.22口径)	リムファイアロングライフル。鉛または類似の軟らかい材料で作られた弾頭のみが使用できる。
300m	最大8m m	選手や射場勤務員に危害を及ぼすことなく発射できるものであればどのような弾薬も

7.5.1.4 選手は、自分の使用する服装がこれらのルールを遵守していることを保証する責任を負う。用具検査室は、公式練習日からライフルの競技が終了する日まで、選手の服装の自主検査のために開けられていなければならない。選手には、これらのルールを遵守していることを確認するために、競技に先立ち、用具検査をすることを推奨する。大会に向けジャケットやズボンを準備する際、選手は気温や湿度など気象条件による測定値の変化を考慮したゆとりを作っておかなければならない。

選手は、自分の使用する服装がこれらのルールを遵守していることを保証する責任を負う。用具検査室は、公式練習到着日からライフルの競技が終了する日まで、選手の服装の自主検査のために開けられていなければならない。選手には、これらのルールを遵守していることを確認するために、競技に先立ち、用具検査をすることを推奨する。大会に向けジャケットやズボンを準備する際、選手は気温や湿度など気象条件による測定値の変化を考慮したゆとりを作っておかなければならない。

7.5.2.1の グローブの欄 12.0mm
表

7.5.2.1の 表に示された厚さの測定基準（許容範囲は0）を上回る測定値は表の下 承認されない。

~~12.0mm~~

検査は、6.5.1に記述された厚さ測定装置によって行われ、その使用手順は最新の「ライフル用具検査ガイド」による。表に示された厚さの測定基準（許容範囲は0）を上回る測定値は承認されない。

注) ジャケットやズボンは通常一重の厚さが測定される。二重の厚さを測るのは、ジャケットのそでの内側やズボンの足の部分のように厚さ測定装置が届かない特定の場所に限られる。

7.5.2.2 a 検査は、6.5.2に記述された固さ測定装置によって行われ、そのの上に挿入 使用手順は、ISSFのホームページ上の最新の「ライフル用具検査ガイド」による。

7.5.2.2 a 測定シリンダーが少なくとも3.0mm沈み込めば、その素材は合格である(6.5.2参照)。

測定シリンダーが少なくとも3.0mm沈み込めば、その素材は合格である~~(6.5.2参照)~~。

7.5.2.2 d ジャケットの縫い目は、隣接するパネルと一体となって曲がらないほど固く作られてはならない。ジャケットを水平に置いた状態で自然に折り畳めるようになっており、着用時にジャケットを固く固定するフレームのような役割を果たしてはならない。疑わしい場合は、上記の方法で縫い目を測定して、30秒間で3mmのたわみができることを測定しなければならない。

7.5.2.3 これは、選手がロボットのように膝を曲げないでべた足で歩くのではなく、「普通に」かかとからついてつま先でける歩き方で歩いた時、靴底が曲がるようにするためである。射場役員やジュリーがこのような行動を見つけた場合、「警告」が与えられ、ペナルティが科される場合がある。

7.5.3.3 靴底が柔軟であることを示すため、選手は、FOPにいるときはいつでも普通の歩き方(踵からつま先)をしなければならない。最初の違反には警告が、違反を繰り返せば2点の減点や失格を科されることになる。

靴底が柔軟であることを示すため、選手は、FOPにいるときはいつでも普通の歩き方(踵からついてつま先でけるおよび膝を曲げる)をしなければならない。特にファイナルにおいて、紹介を受けながら入場する際にはこの歩き方が適用されます。衣服や靴が極端に動きを制限したり、サポートが強すぎて自然な歩行が不可能な場合は、最初の違反には警告が、違反を繰り返せば2点の減点や失格を科されることになる。

7.5.4.1 ジャケットの胴部とそでの厚さは、平らな部分のどこを測定しても、裏地を含めて、一重で2.5mm、二重で5.0mmを超えてはならない。ジャケットの丈は手のこぶしの下部を超えて長くしてはならない(ジャケットの図7.5.4.9参照)。

素材の厚さ-ジャケットの胴部とそでの厚さは、薄い裏地を含む複数の層の素材で作ることができるが、合計の厚さが最大平らな部分のどこを測定しても、~~裏地を含めて、一重~~で2.5mm(一重)、または二重で5.0mm(二重)を超えてはならない。(7.5.2.1参照)。~~ジャケットの丈は手のこぶしの下部を超えて長くしてはならない(ジャケットの図7.5.4.9参照)。~~

7.5.4.2 ジャケットの前合わせは、ボタンかジッパーのような調節のきかない留め具で留めなければならない。合わせの重ねしろはボタン等を留めた状態で100mm以上あってはならない。(ジャケットの図参照)。ジャケットは着る者の体にゆったりと吊られる状態でなければならない。これを判定するために、ジャケットは、ボタン等を留めた状態よりも、少なくとも70mm以上重ね合わせることができなければならないが、この測定はボタンの中心からボタンホールの外側までの長さを測らなければならない。この測定は選手が両腕を体側に下ろした状態で行われる。測定はオーバーラップゲージで、6.0～8.0kgの力をかけて行われなければならない。ボタンホールの周辺部とはボタンホールから12mm以内の範囲のことであり、この範囲は厚さが、許可された2.5mmを超えてもよい。

7.5.4.3 人工的な支持を与えるためのストラップ、ひも、連結、縫い目、ステッチ、機具等は禁止される。しかしながら、ジャケットの肩あて付近の生地たるみを取るために、ジッパー1本または2本以内のストラップをジャケットにつけることは許される(ジャケットの図7.5.4.9参照)。これらの規則と図に示されたもの以外のジッパー、留め具、締め具は許可されない。

留め具-ジャケットの前合わせは、ボタンかジッパーのような調節のきかない留め具で留めなければならない。合わせの重ねしろはボタン等を留めた状態で100mm以上あってはならない。

(ジャケットの図参照)。ジャケットは着る者の体にゆったりと吊られる状態でなければならない。これを判定するために、ジャケットは、ボタン等を留めた状態よりも、少なくとも~~70~~**80**mm以上重ね合わせることができなければならないが、この測定はボタンの中心からボタンホールの外側までの長さを測らなければならない。この測定は選手が両腕を体側に下ろした状態で行われる。測定はオーバーラップゲージで、6.0～8.0kgの力をかけて行われなければならない。ボタンホールの周辺部とはボタンホールから12mm以内の範囲のことであり、この範囲は厚さが、許可された2.5mmを超えてもよい。**ジャケットの前合わせのボタンは最大5個までが許される。**

注) 80mmのオーバーラップ要件は、ジャケットが選手の体、特に胸元にきつくフィットしすぎないようにするためである。ボタンをジャケットの端の方へ移動させることにより、80mmのオーバーラップを満たすことができるはずである。もし素材的にそのようにできない場合は、丈夫なひもなどを用いてボタンを留めるループを作ることで、ボタンホールを延長することは許される。

ストラップ、ひも、ピンディング-人工的な支持を与えるためのストラップ、ひも、**連結ピンディング**、縫い目、ステッチ、機具等は禁止される。しかしながら、ジャケットの肩あて付近の生地たるみを**取る集める**ために、ジッパー1本または2本以内のストラップをジャケットにつけることは許される(ジャケットの図7.5.4.9参照)。これらの規則と図に示されたもの以外のジッパー、留め具、締め具は許可されない。

7.5.4.4 ジャケットの背の部分（バックパネル）は、ジャケットを固くしたり、その柔軟性を損なわない限り、複数の素材を使用した構造のものでもよい。バックパネルのすべての部分は、平らな面で測定して、厚さ2.5mm以内、固さは3.0mm以上の制限が守られていなければならない。

7.5.4.5 ジャケットの横の部分（サイドパネル）には、立射姿勢でライフルを支える腕の肘の下にあたる肘の先端から上部70mm下部20mmの範囲のシームフリーゾーンに縫い目を配置してはならない。シームフリーゾーンの検査は射撃ジャケットを着用し、ボタンを全て閉めた状態で、ライフルを持って立射姿勢をとったうえで行われなければならない。

7.5.4.6 選手はジャケットを着てボタンを留めた状態で両腕を完全に伸ばせ（袖を真っ直ぐにする）なければならない。伏射および膝射の際、スリングを付けた腕のジャケットの袖は手首より先に出てはならない。また、姿勢をとった時、手あるいはグローブと銃のストックのフォアエンドとの間に袖をはさんではならない。袖の端は、明白な支えとなっていなければ、ライフルに触れることは許される。

7.5.4.7 ベルクロ（マジックテープ）、粘着性のある物質、液体またはスプレー等をジャケット、当て物、靴、床、用具の外側や内側に付けることはできない。ジャケットの生地をざらざらにすることは許される。違反にはルールに従ってペナルティが科せられる。

7.5.4.8 射撃ジャケットには以下の制限を超えない補強パッチを外側の面にのみ付けてもよい。

バックパネル—ジャケットの背の部分（バックパネル）は、ジャケットを固くしたり、その柔軟性を損なわない限り、複数の素材を使用した構造のものでもよい。バックパネルのすべての部分は、平らな面で測定して、厚さ2.5mm以内、固さは3.0mm以上の制限が守られていなければならない。

サイドパネル—ジャケットの横の部分（サイドパネル）には、立射姿勢でライフルを支える腕の肘の下にあたる肘の先端から上部70mm下部20mmの範囲のシームフリーゾーンに縫い目を配置してはならない。シームフリーゾーンの検査は射撃ジャケットを着用し、ボタンを全て閉めた状態で、ライフルを持って立射姿勢をとったうえで行われなければならない。

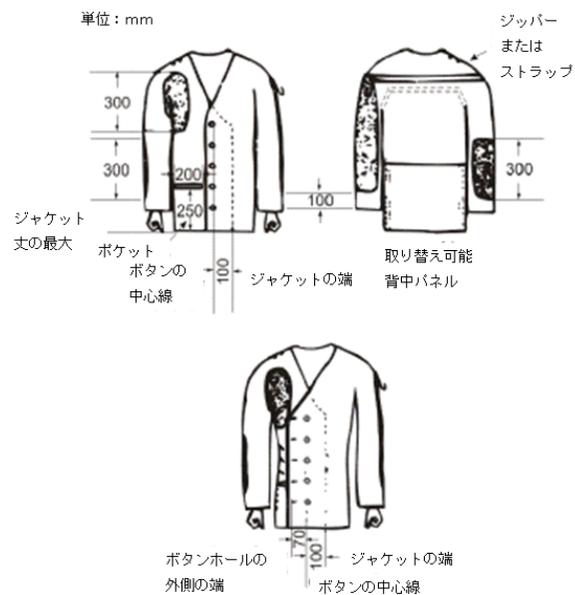
袖—選手はジャケットを着てボタンを留めた状態で両腕を完全に伸ばせ（袖を真っ直ぐにする）なければならない。伏射および膝射の際、スリングを付けた腕のジャケットの袖は手首より先に出てはならない。また、姿勢をとった時、手あるいはグローブと銃のストックのフォアエンドとの間に袖をはさんではならない。袖の端は、明白な支えとなっていなければ、ライフルに触れることは許される。

ベルクロ（マジックテープ）、粘着性のある物質、液体またはスプレー—これらの物質や似たような素材等をジャケット、当て物、靴、床、用具の外側や内側に付けることはできない。ジャケットの生地をざらざらにすることは許される。違反にはルールに従ってペナルティが科せられる。

補強パッチ—射撃ジャケットには以下の制限を超えない補強パッチを外側の面にのみ付けてもよい。

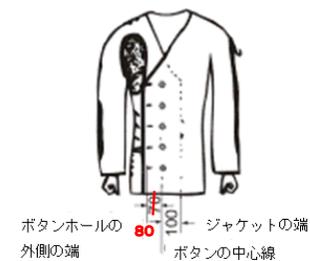
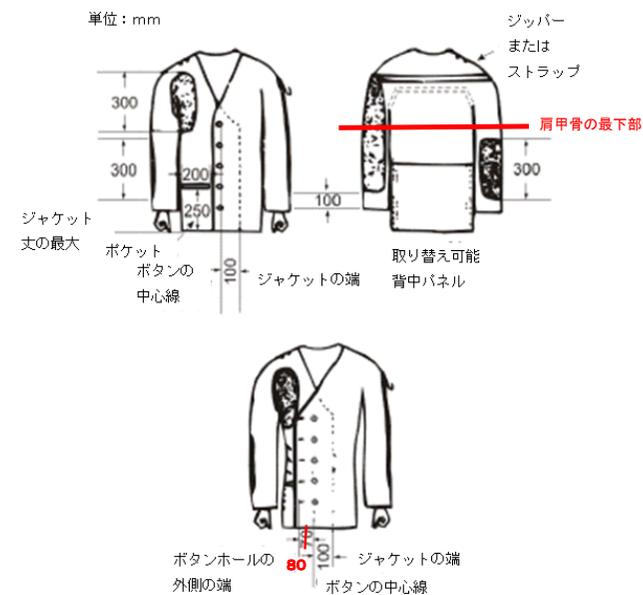
7.5.4.9 射撃ジャケットの寸法

射撃ジャケットは図に示された制限を守らなければならない。



射撃ジャケットの寸法

射撃ジャケットは下図に示された制限を守らなければならない。



ジャケットの下端は、選手が両腕を体側に付けた状態で、握りこぶしの下端より長くしてはならない。

- 7.5.4.10 **ジャケットの固さ**-選手がジャケットを着用しているとき、腕の部分を除く肩甲骨の最下部より上の部分全体は、以下の条件に従って、ジャケットの残りの部分よりも固くてもよい。上部の部分（一重の厚さで）は、公認の固さ測定装置で測定して、30秒以内に3mmのたわみを測定できるという固さ検査に合格しなければならない。肩甲骨の最下部より下のジャケット部分は、同様の検査に、15秒以内で合格しなければならない。

固さ検査は、構造上何枚もの素材の層があったとしても、一重の厚さのジャケットパネルとして行われる。例えば、最大厚さ2.5mmの折りたたまれていないパネル（7.5.2.1参照）。これらの規定は、選手の脚、体または腕の動きを固定したり、過度に抑制する特別な装置、手段または衣服の使用を禁止する6.7.4.2の原則に反して、過度のサポートをジャケットが提供しないように、ジャケットの固さを軽減することを目的とする。しかしながら、立射姿勢でライフルを構える際の背中上部および肩への負担を軽減するために、選手にはある程度のサポートが必要なことは認識されており、これがジャケット上部の固さが他の部分より固くてもよい理由である。現在使用されているほとんどのジャケットは、必ずしも仕立て直しを必要としないが、新品の時には、必要な柔軟性を実現するために、曲げたり補正したりする必要がある。

- 7.5.5.1 厚さ一射撃ズボンの厚さは、どの平らな面で測定しても、裏地を含めて、一重で2.5mm、二重で5mmを超えてはならない。
- a) 高さ一射撃ズボン着用の際、上端が骨盤の頂点より50mmを超えて高くなってはならない。
 - b) ポケットーポケットはすべて禁止される。
 - c) 締め付け具ーズボンは両脚の部分で余裕がなければならぬ。ズボンの脚部またはお尻の周囲を締め付けるようなひも、ジッパー等はすべて禁止される。
 - d) ウエストベルトーズボンを支えるために幅40mm以下、厚さ3mm以内の通常のベルトまたは伸縮するサスペンダーを使用してよい。立射姿勢でベルトを着用する場合はバックルや締め具を左腕や左肘の支えとして使用してはならない。ベルトは左腕や左肘の下にあたる部分で二重、三重等にしてはならない。
 - e) ウエストバンドーズボンにウエストバンドがある場合、その幅は70mmを超えてはいけぬ。ウエストバンドの厚さが2.5mmを超える場合はウエストベルトの使用は許されない。ズボン着用の際にウエストベルトを使用しない場合、ウエストバンドの最大の厚さは3.5mmとする。
 - f) ベルトループーベルトループ（ベルトを通す輪）は最大7本までで、それぞれの幅が20mmを超えてはならず、ベルトループ間は80mm以上あること。

g) ズボン留め（腰の部分）ーズボンは、1つのホックで5個以下の留め具または受け金具が5個以下のスナップボタンまたは類似の留め具または多層構造となっていないベルクロ（マジックテープ）を使用して閉じてよい。ズボンを閉じる方法は1つの方法のみが許可される。ベルクロ（マジックテープ）と他の方法との併用は禁止する。h) 通常のズボンー射撃ズボンを着用しない場合、体のどの部分にも人工的な支えを与えることのない通常のズボンを着用してよい。

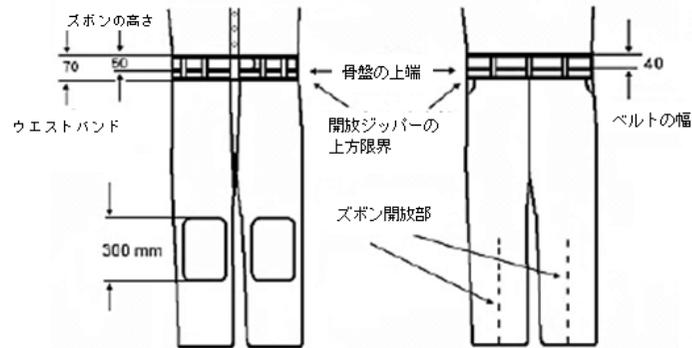
- 厚さ**一射撃ズボンの厚さは、どの平らな面で測定しても、裏地を含めて、一重で2.5mm、二重で5mmを超えてはならない。
許容された厚さを超えない限り、素材を構成する層は何層あってもかまわない。
- a) **高さ**一射撃ズボン着用の際、上端が骨盤の頂点より50mmを超えて高くなってはならない。
 - b) **ポケットー**ポケットはすべて禁止される。
 - c) **締め付け具**ーズボンは両脚の部分で余裕がなければならぬ。ズボンの脚部またはお尻の周囲を締め付けるようなひも、ジッパー等はすべて禁止される。
 - d) **ウエストベルト**ーズボンを支えるために幅40mm以下、厚さ3mm以内の通常のベルトまたは伸縮するサスペンダーを使用してよい。立射姿勢でベルトを着用する場合はバックルや締め具を左腕や左肘の支えとして使用してはならない。ベルトは左腕や左肘の下にあたる部分で二重、三重等にしてはならない。
 - e) **ウエストバンド**ーズボンにウエストバンドがある場合、その幅は70mmを超えてはいけぬ。ウエストバンドの厚さが2.5mmを超える場合はウエストベルトの使用は許されない。ズボン着用の際にウエストベルトを使用しない場合、ウエストバンドの最大の厚さは3.5mmとする。
 - f) **ベルトループ**ーベルトループ（ベルトを通す輪）は最大7本までで、それぞれの幅が20mmを超えてはならず、ベルトループ間は80mm以上あること。

g) ズボン留め（腰の部分）ーズボンは、1つのホックで5個以下の留め具または受け金具が5個以下のスナップボタンまたは類似の留め具または多層構造となっていないベルクロ（マジックテープ）を使用して閉じてよい。ズボンを閉じる方法は1つの方法のみが許可される。ベルクロ（マジックテープ）と他の方法との併用は禁止する。h) **通常のズボン**ー射撃ズボンを着用しない場合、体のどの部分にも人工的な支えを与えることのない通常のズボンを着用してよい。

- 7.5.5.2 ジッパー、ボタン、ベルクロ（マジックテープ）、類似の調整できないファスナー類はズボンの次の場所にのみに使用できる。
- a) ズボンの前開きの開閉のためのファスナーまたは閉め具は1種類のみ。前開きは股より下にのびてはならない。
 - b) 閉じることのできない開口部は複数許される。
 - c) ズボンの各々の脚部にファスナーが1本だけ許される。ファスナーの上端はズボンの上端から70mm以上離れていなければならない。しかし、ファスナーがズボンの脚部の最下部に達してもよい（ジャケットとズボンの図参照）。1本のファスナーをズボンの脚の上部前方または脚の後部に取り付けることは許されるが、1本の脚の前後両方に取り付けることは許されない。

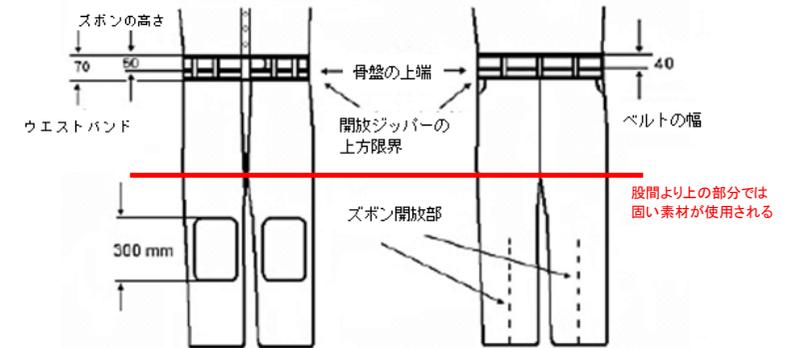
- 7.5.5.4 射撃ズボンはライフルの伏射種目では着用してはならないが、ライフルの三姿勢種目の伏射ステージでの着用は許される。

7.5.5.5



- ジッパー、ボタン、ベルクロ（マジックテープ）、**類似の調整できないファスナー類はズボンの次の場所にのみに使用できる。
- a) ズボンの前開きの開閉のためのファスナーまたは閉め具は1種類のみ。前開きは股より下にのびてはならない。
 - b) 閉じることのできない開口部は複数許される。
 - c) ズボンの各々の脚部にファスナーが1本だけ許される。ファスナーの上端はズボンの上端から70mm以上離れていなければならない。しかし、ファスナーがズボンの脚部の最下部に達してもよい（**ジャケットと射撃ズボンの図7.5.5.5**参照）。1本のファスナーをズボンの脚の上部前方または脚の後部に取り付けることは許されるが、1本の脚の前後両方に取り付けることは許されない。

- 射撃ズボンはライフルの男女の伏射種目では着用してはならないが、~~およ~~びライフルの三姿勢種目の伏射ステージでの射撃ズボンの着用は許される。**



7.5.5.6 **射撃ズボンの固さ**-ズボンは、薄い裏地を含む複数の層の素材で作ることができるが、合計の厚さが一重で2.5mmを超えてはならない。ズボンの股下より上の部分は、下の部分より固くすることができるが、以下の条件を満たしている必要がある。ズボンの股下より上の部分は公認の固さ測定装置で測定して、30秒以内に3mmのたわみを測定できるという固さ検査に合格しなければならない。股下より下のズボンの両脚の部分は、同様の検査に、15秒以内で合格しなければならない。

固さ検査は、構造上何枚もの素材の層があったとしても、一重の厚さのズボンパネルとして行われる。例えば、最大厚さ2.5mmの折りたたまれていないパネル（7.5.2.1参照）。この意図は、ジャケット（7.5.4.10）で概説されているものと同様に、6.7.4.2に従うように脚部の素材の固さを軽減しつつ、立射姿勢でライフルを構える際の負担や怪我のリスクを軽減するために、腰部および腰椎部へのサポートを維持するためである。

7.5.6.1 グローブの厚さは、縫い目と継ぎ目を除いた、どこの部分でも、手の甲から手のひらまで重ねて測定して、12mmを超えてはならない。選手が内手袋を着用する場合、厚さ測定はそれも含めて測定されなければならない。

グローブの厚さは、縫い目と継ぎ目を除いた、どこの部分でも、手の甲から手のひらまで重ねて測定して、~~12~~16mmを超えてはならない。選手が内手袋を着用する場合、厚さ測定はそれも含めて測定されなければならない。

7.5.8.3 撃発と撃発の間でライフルを置くためにライフルレストを使用する場合、ライフルレストのどの部分も、その選手のライフルを持った立射姿勢の肩の高さよりも、高くないようにして使用できる。立射ではライフルレストスタンドを射撃テーブルの前方へ置いてはならない。ニーリングロールをライフルレストとして使用することはできる。ライフルレストにライフルを置いている間、それが隣接の選手に邪魔になっていないか注意を払わなければならない。また、安全性の確保のため、ライフルレストにライフルを置いている間、選手はライフルを保持していなければならない。

7.5.8.8 バイザーと帽子
帽子やバイザーを着用することはできる。帽子やバイザーは選手のひたいから80mmを超えて張り出すことはできない。軟らかい素材の帽子やバイザーがリアサイトに触れるのは構わない。軟らかくないまたは硬い素材の帽子やバイザーはリアサイトに触れることは許されない。
どのようなタイプの帽子やバイザーであってもサイドブラインダーとして使用するよう着用することはできず、ジュリーが同じ高さの側方から見た時に選手の目が確認できなければならない。

リアサイトに帽子やバイザーが触れることを禁止する本来の目的は、それが選手のチェックポイントとして使用されるのを防ぐことと、ライフルの水平方向の回転を防ぎ安定性が増す可能性に対してである。軟らかいゴム製のバイザーではそのような有利性はなく、従って許されるものである。

撃発と撃発の間でライフルを置くためにライフルレストを使用する場合、ライフルレストのどの部分も、その選手のライフルを持った立射姿勢の肩の最も高い高さよりも、高くないようにして使用できる。立射ではライフルレストスタンドを射撃テーブルの前方へ置いてはならない。~~ニーリングロールをライフルレストとして使用することはできる。~~選手はライフルレストにを利用してライフルを置いている間たり、装填する際には、ライフルを射座の幅内に維持し、それが隣接両側の選手に邪魔にならないかように注意を払わなければならない。また、安全性の確保のため、ライフルレストにライフルを置いている間、選手はライフルを保持してに手を添えていなければならない。

バイザーと帽子
帽子やバイザーを着用することはできる。帽子やバイザーは選手のひたいから80mmを超えて張り出すことはできない。軟らかい素材の帽子やバイザーがリアサイトに触れるのは構わない。軟らかくないまたは硬い素材の帽子やバイザーはリアサイトに触れることは許されない。
どのようなタイプの帽子やバイザーであってもサイドブラインダーとして使用するよう着用することはできず、ジュリーが同じ高さの側方から見た時に選手の目が確認できなければならない。

リアサイトに帽子やバイザーが触れることを禁止する本来の目的は、それが選手のチェックポイントとして使用されるのを防ぐことと、ライフルの水平方向の回転を防ぎ安定性が増す可能性ことに対してである。軟らかいゴム製のバイザーではそのような有利性はなく、従って許されるものである。

7.6.1.2 l ライフルの伏射種目では射撃ズボンを着用してはならない。

~~ライフルの伏射種目では射撃ズボンを着用してはならない。~~
ライフルを支えている腕のジャケットの袖は、グローブとライフルの間に挟まったり、追加のサポートを与えない限り、フォアエンドの下面に触れることが許される。

7.6.1.3 b ライフルは両手、肩または肩の近くの上腕部および右肩に隣接する胸の部分で保持されなければならない。

ライフルは両手、肩または肩の近くの上腕部および右肩に隣接する胸の部分で保持されなければならない。ライフルが胸の上部でジャケットに触れることは許される。

7.6.1.3. d 胸の中心線を明白に超える部分の射撃ジャケットにライフルが触れてはならない。

~~胸の中心線を明白に超える部分の射撃ジャケットにライフルが触れてはならない。~~右手は左手や左腕に触れることはできない。左手は左肩やジャケットの左側に触れることはできない。両手、および指はジャケットの左側に触れてはならない。
「ジャケットの左側」とは、胸の中央を通る仮想の垂直線の左側の領域である。

7.6.1.3. f ライフルは、7.6.1.3. bで許された範囲を除き、その他の体の部位または物体に触れたり、託したりしてはならない。ライフルと選手の服装のその他の部分、選手の顔とリアサイト（目かくし板が取り付けられている場合には目かくし板とも）、そして両手の間は明白に見ることのできる隙間がなければならない。

ライフルは、7.6.1.3. bとdで許された範囲を除き、その他の体の部位または物体に触れたり、依託したりしてはならない。ライフルと~~選手の服装のその他の部分~~、選手の顔とリアサイト（目かくし板が取り付けられている場合には目かくし板とも）、~~そして両手の間は明白に見ることのできる~~隙間がなければならない。

この隙間の幅は、本射中に競技役員またはジュリーがその幅を測定しようとして選手の邪魔をしないように、意図的に指定していないが、この隙間は、リアサイトやブラインダーを含むライフルがどの点や物体とも接触していないと疑いなく確認できるようでなければならない。

7.6.1.3.h 300mスタンダードライフルと10mエアライフルのこの姿勢ではハンドストップやスリング留め金具の装着は許されない。

300mスタンダードライフルと10mエアライフルの種目のこの姿勢ではハンドストップやスリング留め金具の装着は許されない。

7.6.1.3 i この姿勢では、スリングの使用は禁止され、右手は左手、左腕または射撃ジャケットの左側と触れてはならない。

この姿勢では、スリングの使用は禁止され、~~右手は左手、左腕または射撃ジャケットの左側と触れてはならない~~。

7.7.4 ライフル種目本選一覧表 (ISSF)

10m
ミックス 30分

10mエ
アライ
フルミ
ックス ~~30~~40分

50m
ライフル
3姿勢 60 2時間 1時間
30分

50m
ライフル
3姿勢 60 2時間 屋内：1
時間30
分
屋外：1
時間45
分

300m
ライフル
伏射 50分

~~50~~分
1時間

7.8	索引		
	ウエイトー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.7	7.4.2.72
	グリップ力を増す物質ー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.6	7.4.2.61 e
	サムホールー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.2	7.4.2.21 g
	サムレストー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.2	7.4.2.21 g
	射撃ズボンーサスペンダー	7.5.5.1	7.5.5.1 d
	射撃ズボンー留め具	7.5.5.1	7.5.5.1 d
	射撃ズボンー留め具：ズボンの前開き	7.5.5.2	7.5.5.2 a
	射撃ズボンーベルト	7.5.5.1	7.5.5.1 d
	水準器ー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.2	7.4.2.21 g
	バットプレートーオフセットー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.1	7.4.2.1 c
	パームレストー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.2	7.4.2.21 g
	ヒールレストー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.2	7.4.2.21 g
	ハンドヒールレストー300mスタンダードライフル/10mエアライフル		7.4.2.21 g
	ピストルグリップの張り出しー300mスタンダードライフル/10mエアライフル	7.4.2.3	7.4.2.31 f

2026年度版ルール 新旧対照表

8. ピistolルール

旧

新

目次	8.4	用具と弾薬
	8.13	ピistol外形図と寸法
	8.14	索引

		用具ピistol、グリップと弾薬
	8.13	ピistol外形図と寸法索引
	8.14 → 8.13 に繰り下げ	

8.4 **用具と弾薬**

用具ピistol、グリップと弾薬

8.4.1.1 **グリップ**：グリップの寸法や詳細についてはピストル規格一覧表（8.12）とピストル外形図（8.13）を参照。

a) グリップのみならずピストルのいかなる部分であっても手以外の部分に触れるように拡張、作製することはできない。通常の射撃姿勢をとったとき、手首は明瞭に自由でなければならない。ブレスレット、腕時計、リストバンド、または類似の物をピストルを持つ手や腕に付けることは禁止される。

b) 可変式グリップは、選手の手に合わせてときにそれらのルールに適合していれば使用を許される。グリップの調整は、これらのルールに適合しているか確認のため、競技後検査で調べられる。

~~グリップ：グリップの寸法や詳細についてはピストル規格一覧表（8.12）とピストル外形図（8.13）を参照。~~

a) グリップのみならずピストルのいかなる部分であっても手以外の部分に触れるように拡張、作製することはできない。**通常の射撃姿勢をとったとき、手首は明瞭に自由でなければならない。**これは、選手の手には何らかの印をつけることなく、目に見える形で確認されなければならない。

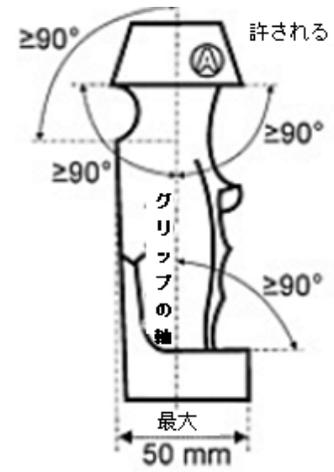
手による銃の握りを強化するための接着剤や樹脂の使用はどのようなものでも禁止される。チョーク、タルクパウダー、マグネシウムまたは類似の物質の使用は許される。

ブレスレット、腕時計、リストバンド、または類似の物をピストルを持つ手や腕に付けることは禁止される。

b) 可変式グリップは、選手の手に合わせてときにそれらのルールに適合していれば使用を許される。グリップの調整は、これらのルールに適合しているか確認のため、競技後検査で調べられる。

圧縮可能な物質は使用できない。

c) 10mおよび25mピストルのグリップの許容範囲は以下の図に示すとおりである。



許されない



許されない



8.4.1.3 サイト

- a) オープンサイトのみが許される。光ファイバー、光増加式または光を反射する色の表面を持つものは禁止される。光学レンズ、鏡、スコープ、レーザービーム、プロジェクタードットサイトなどは禁止される。
- b) 撃発機構を作動するようにプログラムされた照準装置はどのようなものも禁止される。
- c) フロントサイト、リアサイトの保護カバーは許可されない。
- d) 10mエアピストルおよび25mピストルはサイトを付けた状態で基準箱の中に入らなければならない（ピストル規格一覧表8.12参照）。
- e) 矯正用レンズおよび/またはフィルターはピストルに取り付けてはならない。
- f) 矯正用レンズまたはめがねおよび/またはフィルターまたは色つきレンズを選手がかけることはできる。

8.4.1.2 を削除

8.4.1.32 サイト

- a) オープンサイトのみが許される。光ファイバー、光増加式または光を反射する色の表面を持つものは禁止される。光学レンズ、鏡、スコープ、レーザービーム、プロジェクタードットサイトなどは禁止される。
- b) 撃発機構を作動するように**または選手に撃発タイミングを知らせるように**プログラムされた照準装置はどのようなものも禁止される（**ピストルが標的に向けられているときだけ撃発できる安全機構も含む**）。
- c) フロントサイト、リアサイトの保護カバーは許可されない。
- d) 10mエアピストルおよび25mピストルはサイトを付けた状態で基準箱の中に入らなければならない（ピストル規格一覧表8.12参照）。
- e) 矯正用レンズおよび/またはフィルターはピストルに取り付けてはならない。
- f) 矯正用レンズまたはめがねおよび/またはフィルターまたは色つきレンズを選手がかけることはできる。

- 8.4.1.4 **電気式トリガー**は次の条件で使用を許される。
- a) すべての構成部品はピストルのフレームまたはグリップの中にしっかりと内装されていること。
 - b) 引金はピストルを保持している手によって操作されること。
 - c) すべての構成部品は用具検査係が検査する際にはピストルに装着されていなければならない。
 - d) ピストルは、すべての構成部品が装着された状態で、寸法および重量がその種目のルールに適合するものであること。

8.4.1.5 **ケースキャッチャー**は、装着した状態でルール内(寸法と重量)であれば使用を許される。

8.4.1.6 **動きまたは振動の減衰システム** 弾が発射される前のライフルの振動や動きを能動的に減衰、減速または最小化させるような装置、機構またはシステムは禁止される。

- 8.4.1.43 **電気式トリガー**は次の条件で使用を許される。
- a) すべての構成部品はピストルのフレームまたはグリップの中にしっかりと内装されていること。
 - b) 引金はピストルを保持している手によって操作されること。
 - c) 引き金は押すことで撃発される原理で作動し、その作動に遅延を起こさない(遅延の許容範囲は0.02秒である)。
 - ~~e~~ d) すべての構成部品は用具検査係が検査する際にはピストルに装着されていなければならない。
 - ~~e~~ e) ピストルは、すべての構成部品が装着された状態で、寸法および重量がその種目のルールに適合するものであること。
 - f) 競技中、ピストルは、バッテリー充電用の充電器を除き、いかなる機器にも接続してはならない。競技中またはPET中に、ピストルを機器に接続した場合(電子的接続またはケーブル接続にかかわらず)、失格となる。

8.4.1.5 → 8.4.1.6 h

8.4.1.64 **動きまたは振動の減衰システム**
弾が発射される**前のピストル**の振動や動きを能動的に減衰、減速または最小化させるような装置、機構またはシステムは禁止される。

8.4.1.5 10mピストル

ピストルはすべてのアクセサリーを装着した状態で基準箱(8.12 b)に収まらなければならない。

a) 単発のもののみ使用できる。5連発エアピストルで10mエアピストル種目に参加する場合には、単発装填をしなければならない。

b) 穴あき銃身や穴あきアタッチメントを銃身につけることは許される。

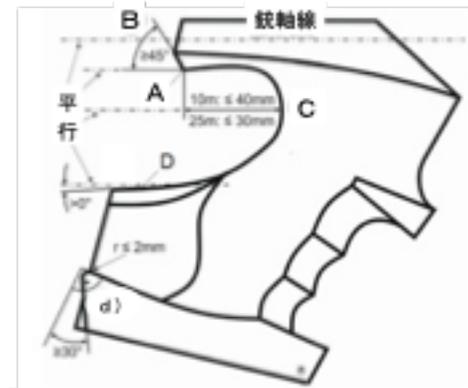
c) グリップ、フレーム、アクセサリーのいかなる部分にも、手首のどの部分も接触してはならない。ヒールレストはグリップに対して90度以上の角度で伸びていなければならない。このヒールレストの規定は、グリップに対しての前後方向だけでなく、側方についても適用される。

d) ヒールレストの手首側の端は30度以上の角度で切られていなければならない。

e) それに加え、親指と人差し指の間に触れるフレームまたはグリップの後端は、グリップが最初に手の上と接触する点(A)からグリップの最深部までの長さ(C)が40mmを超えてはならない。グリップの後部は、その点(A)から銃身軸線に対して45度以上の角度で上向きに切られてなければならない。

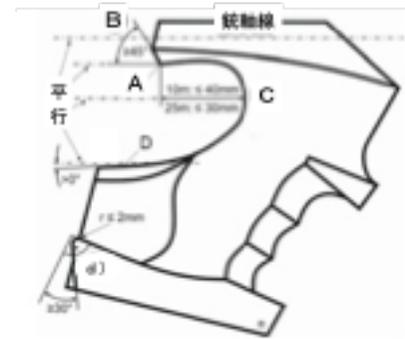
f) ”D”で示された曲線はグリップの最深部から銃軸線下側方向に向かっていなければならない。グリップは手を囲むようになってはならない。Dの曲線は、グリップの最深部から後方に向けてのどの点においても、銃軸線に向かったり、平行になってはならない。

g) ヒールレストやサムレストを含めグリップまたはフレームのピストルの縦方向(銃軸線に沿った方向)における曲面は許される。



8.4.1.6 25mピストル

- a) ピストルはすべてのアクセサリーを装着した状態で基準箱(8.12)に収まらなければならない。
- b) コンペンセーター、マズルブレーキ、穴の開いた銃身または同様の機能をもつどのような装置も使用できない。
- c) グリップ、フレーム、アクセサリーのいかなる部分にも、手首のどの部分も接触してはならない。ヒールレストはグリップに対して90度以上の角度で伸びていなければならない。このヒールレストの規定は、グリップに対しての前後方向だけでなく、側方についても適用される。
- d) ヒールレストの手首側の端は30度以上の角度で切られていなければならない。
- e) それに加え、親指と人差し指の間に触れるフレームまたはグリップの後端は、グリップが最初に手の上と接触する点(A)からグリップの最深部までの長さ(C)が40mmを超えてはならない。グリップの後部は、その点(A)から銃身軸線に対して45度以上の角度で上向きに切られてなければならない。
- f) ”D”で示された曲線はグリップの最深部から銃軸線下側方向に向かっていなければならない。グリップは手を囲むようになってはならない。Dの曲線は、グリップの最深部から後方に向けてのどの点においても、銃軸線に向かったり、平行になってはならない。

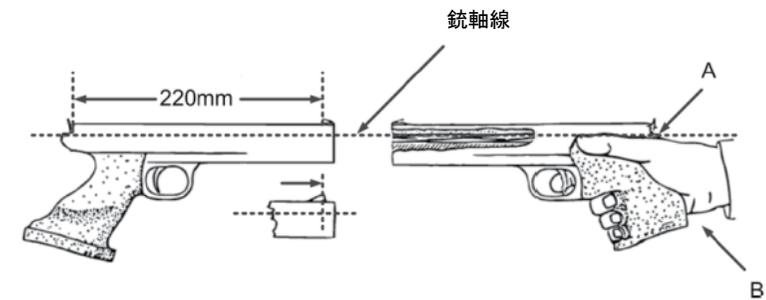


g) ヒールレストやサムレストを含めグリップまたはフレームのピストルの縦方向（銃軸線に沿った方向）における曲面は許される。

h) ケースキャッチャーは、装着した状態でルール内(寸法と重量)であれば使用を許される。

i) 銃身軸線は、普通の射撃姿勢をとったときにピストルをにぎった手の(親指と人差指の間)の上を通らなければならない(下図参照)。

j) 銃身の長さとは次の部分を測定したもの(下図参照)。



8.4.1.7 ピストルは検査を受け、承認された後、ISSF用具検査データベースに登録されなければならない。各選手には、承認されたピストルを最大5丁まで記載したカードが発行される。カードにはピストルの銃番号が記載されてなければならない。使用するピストルの有効なカードを持っていない選手は、用具検査室にピストルを持参し承認を受け、データベースに追加するされなければならない。カードはこの時点で発行または修正される。

8.4.3.1 b 銃身軸線は、普通の射撃姿勢をとったときにピストルをにぎった手の(親指と人差指の間)の上を通らなければならない(ピストル外形図参照)。

銃身軸線は、普通の射撃姿勢をとったときにピストルをにぎった手の(親指と人差指の間)の上を通らなければならない(ピストル外形図8.4.1.6 i参照)。

8.4.3.4 b 1 発ずつ装填しなければならない。
を挿入

8.4.3.4 b → 8.4.3.4 c に変更

8.4.4.1 速度検査はクロノグラフ(速度測定器具)で行われる。用具検査 Jury は、ISSF テクニカル委員会によって作成された検査手順に従って、クロノグラフの正確性を確認しなければならない。クロノグラフは選手が使用できるように射場内になければならない。

速度検査はクロノグラフまたは~~他の~~速度測定器具(例えば、ドップラーシステムなど)で行われる。用具検査 Jury は、ISSF テクニカル委員会によって作成された検査手順に従って、~~クロノグラフ~~測定器具の正確性を確認しなければならない。~~クロノグラフ~~速度測定器具は選手が使用できるように射場内になければならない。

8.4.4.3 ラピッドファイアピストル種目の本選終了後20分以内に、発表された結果に基づきファイナル進出を決めた8名の選手は、ファイナルで使うすべての弾薬を持って速度検査所に集合しなければならない。ファイナル開始前に速度検査に選手自身が現れなかった場合、その選手はファイナルには参加できず、ファイナル順位は8位となり、DNSと記載される。持参した弾薬からサンプルを取り出し、速度検査が実施される。弾薬は選手立ち合いのもと封印され、用具検査役員によってファイナルレポーター場所に運ばれる。

8.6.3 ピistolサポートスタンド

選手は、撃発と撃発との間にピistolを置くために、ピistolサポートスタンドや箱を台やテーブルの上に置くことができる。サポートスタンドや箱を含めた台やテーブル全体の高さは1.00mを超えることはできない(6.4.11.10参照:台の高さの最大値は1.00m)。予選または本選では、ピistol運搬用ボックス(8.6.3)をピistolサポートスタンドとして使用することはできるが、ボックスを載せた台やテーブル全体の高さは1.00mを超えてはならない。ファイナルではピistol運搬用ボックスをピistolサポートスタンドとして使用することはできない。

8.7.6.1 b 前の射群の終了後、準備時間の開始13分前に、射場長は選手を射座に呼ぶ。CROの許可を得て、選手は射座でピistolをボックスから取り出し、ピistolを取り扱うことができるようになるが、セフティフラッグは挿入されたままでなければならない。据銃、照準練習を行うことはできる。

8.7.6.2 c **LOAD (弾の装填)** すべての25m種目の練習および本選においては、“LOAD (ロード)”の号令により、1個の弾倉または銃に5発以内の弾を込めることができる。弾以外のものを弾倉またはシリンダーに装填してはならない。

ピistolサポートスタンド

選手は、撃発と撃発との間にピistolを置くために、ピistolサポートスタンドや箱を台やテーブルの上に置くことができる。サポートスタンドや箱を含めた台やテーブル全体の高さは1.00mを超えることはできない(6.4.11.109 c 参照:台の高さの最大値は1.00m)。予選または本選では、ピistol運搬用ボックス(8.6.3)をピistolサポートスタンドとして使用することはできるが、ボックスを載せた台やテーブル全体の高さは1.00mを超えてはならない。ファイナルではピistol運搬用ボックスをピistolサポートスタンドとして使用することはできない。

前の射群の終了後、準備時間の開始~~13~~10分前に、射場長は選手を射座に呼ぶ。CROの許可を得て、選手は射座でピistolをボックスから取り出し、ピistolを取り扱うことができるようになるが、セフティフラッグは挿入されたままでなければならない。据銃、照準練習を行うことはできる。

LOAD (弾の装填) すべての25m種目の練習および本選においては、“LOAD (ロード)”の号令により、1個の弾倉または銃に5発以内の弾を込めることができる。弾以外のものを弾倉~~またはシリンダー~~に装填してはならない。

8.7.6.2 f **UNLOAD (抜弾)** すべての種目において、シリーズまたはステージが終わった後、“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられなければならない。シリーズが終了したとき(銃器故障を除く)、または号令があった場合、どんな状況でも、ただちに選手はピストルから弾を抜かなければならない。

UNLOAD (抜弾) すべての種目において、シリーズまたはステージが終わった後、“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられなければならない。シリーズが終了したとき(銃器故障を除く)、または号令があった場合、どんな状況でも、ただちに選手はピストルから弾を抜**かき、セフティフラッグを挿入**しなければならない。

8.7.6.4
の表

ステージ	シリーズ数および発射弾数	試射および本射の制限時間
1. 精密射撃ステージ	5発の6シリーズ	5分
2. 速射ステージ	5発の6シリーズ	下記参照

ステージ	シリーズ数および発射弾数	試射および本射の制限時間
1. 精密射撃ステージ	5発の6シリーズ	5分 240秒
2. 速射ステージ	5発の6シリーズ	下記参照

8.7.6.4 d 試射および本射シリーズの終了時、“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられた後には、射場役員が次のシリーズを開始するために“LOAD (ロード)”の号令をかける前に、1分間の休止をとらなければならない。

試射および本射シリーズの終了時、“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられた後には、射場役員が次のシリーズを開始するために“LOAD (ロード)”の号令をかける前に、**少なくとも**1分間の休止をとらなければならない。

8.7.6.5 g 試射または本射のシリーズの終わりに“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられた後、次のシリーズの開始にかけられる“LOAD (ロード)”前に1分間の休止をとらなければならない。

試射または本射のシリーズの終わりに“UNLOAD (アンロード)”の号令がかけられた後、次のシリーズの開始にかけられる“LOAD (ロード)”前に、**少なくとも**1分間の休止をとらなければならない。

8.7.6.5 h 種目を2つのパートに分けて行う必要があるときは、各パートは次のように構成しなければならない。

例外的に種日本射を2つのパートに分けて行う必要があるときは場合、各パートは次のように構成しなければならない。

8.8.1 d 精密射撃ステージにおいては、制限時間を1発につき1分間とし、そのシリーズを完射させる。

精密射撃ステージにおいては、制限時間を1発につき~~1分間~~48秒とし、そのシリーズを完射させる。

8.9.1 b 25mスタンダードピストルでは、150秒射ステージで1回、20秒射、10秒射の両ステージを合わせた中で1回。

25mスタンダードピストルでは、~~150秒射ステージで1回、20秒射、10秒射の両ステージを合わせた中で1回~~60発の本射中2回。

注) 例外的に本射を2つのパートに分けて行う場合(8.7.6.5 h 参照)、各30発ステージで1回ずつ。

8.9.1 c 故障後の再射シリーズの採点には、適正な様式(RFPMまたはSTDP)を使用しなければならない。様式はGTR6.18にある。

故障後の再射シリーズの採点には、適正な様式(RFPMまたはSTDP)を使用しなければならない。様式はGTR6.~~18~~19にある。

8.9.1 d 25m種目のファイナルにおける故障(許容できるものまたは許容できないもの)はGTR6.17.4.mまたは6.17.5.lに従って、裁定される。

25m種目のファイナルにおける故障(許容できるものまたは許容できないもの)はGTR6.17.4.~~m~~または6.17.5.~~l~~kに従って、裁定される。

8.9.4.6 b シリーズ完射のための弾(完射シリーズ)は次の通常のシリーズの中で撃たなければならない。精密射撃ステージでは1発につき1分間の射撃時間が与えられ、速射ステージでは、完射シリーズで標的が最初に正対したときから撃ち始めなければならない。

シリーズ完射のための弾(完射シリーズ)は次の通常のシリーズの中で撃たなければならない。精密射撃ステージでは1発につき~~1分間~~48秒の射撃時間が与えられ、速射ステージでは、完射シリーズで標的が最初に正対したときから撃ち始めなければならない。

8.10.3 cを b として挿入

8.10.3 b 25mピストルや25mセンターファイアピストルの速射ステージや25mスタンダードピストルの速射ステージの場合、選手はその5発シリーズを継続し、そのシリーズが終了したら直ちに最も近くの射場役員に知らせなければならない。

8.10.3 ~~bc~~ 25mピストルや25mセンターファイアピストルの速射ステージや25mスタンダードピストルの速射ステージおよび25mラピッドファイアピストルの場合、選手はその5発シリーズを継続し、そのシリーズが終了したら直ちに最も近くの射場役員に知らせなければならない。

8.11 ピストル種目本選一覧表 (ISSF)

10m ミックス		30分 (60分)	10分
50m ピストル	男		
25m ピストル		精密ス テージ 5分間で 5発シ リーズを	
25m センター ファイア ピストル	男	6回の合 計30発 速射ス テージ 速射で5 発シリー ーズを	

ピストル種目本選一覧表 ~~(ISSF)~~

10m エ アピスト ル ミックス			30 40 分 (60分)	10 15分
	男女			
		精密ス テージ 5分24 0秒間で 5発シ リーズを		
	男女	6回の合 計30発 速射ス テージ 速射で5 発シリー ーズを		

25m
スタン
ダード
ピストル

男

男女

8.12の表：グリップの欄は全て「8.4参照」に変更
備考欄のa)とb)を削除してc)→a)、d)→b)に変更

8.13 ピストル外形図 を削除

8.14 を 8.13 に繰り下げ

8.14 索引

25mスタンダードピストルシリーズの開始－アテンション	8.7.6.5. d	8.7.6.5. df
25mピストル/25mセンターファイアピストル－速射ステージ	8.7.6.4	8.7.6.4 j
25mラピッドファイアピストルシリーズの開始－アテンション	8.7.6.3. f	8.7.6.3. fk
動きまたは振動の減衰システム	8.4.1.6	8.4.1. 64
ケースキャッチャー	8.4.1.5	8.4.1. 56 h
故障時に使用する書類の様式－TRの索引前参照	6.18. e/ 6.18. f	6. 1819 . e/6. 1819 . f
サイトピストル規格一覧表 (8.12) 参照	8.4.1.3	8.4.1. 32
銃身ピストル規格一覧表 (8.12) 参照	8.4.1.2	8.4.1. 26
銃身長測定－25mピストル	8.4.1.2	8.4.1. 26
視力矯正レンズ	8.4.1.3. e	8.4.1. 32 . e
視力矯正眼鏡	8.4.1.3. f	8.4.1. 32 . f
手首－支えが無いことが見て分かること	8.7.1	8.7.1 & 8.4.1.1
電気式引金	8.4.1.4	8.4.1. 43
表－ピストル図と測定法	8.13	8. 134 . 1.5 & 8.4.1.6